

平成30年度

明日の新潟の飛躍につながる  
魅力ある学校づくり推進事業

成果報告書

新潟県教育庁高等学校教育課

はじめに

新潟県教育委員会では、「ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦し、未来を切り拓いていける、たくましいひとづくり」を目指し、一人一人の個性に応じた質の高い豊かな教育を推進しています。

県立高校については、平成28年3月に「県立高校の将来構想」を策定し、これからの高校教育の充実を目指す魅力的な学校づくりの方向性をまとめました。その中で示した目指す高校のすがたの実現に向け、平成30年度から県立高校13校において「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」を実施しています。

主な事業内容は次の三点です。

- 1 教育環境の充実に向けた教育システムの研究や、地域連携をとおして社会に開かれた教育課程の研究を推進する。
- 2 市町村や地元企業からの協働の提案等を踏まえた取組を推進する。
- 3 「県立高校の将来構想」に示した5つのそれぞれのタイプについて、これからの高校に求められる役割や自校の目指す姿を実現するための取組を推進する。

各校の今年度の取組内容及び成果のまとめとなる本書を有効に活用し、明日の新潟の飛躍につながる魅力と活力ある学校づくりが一層推進されることを期待しています。

平成31年3月

新潟県教育庁高等学校教育課長 藤澤 健一

## 目 次

1	新潟向陽高等学校	.....	1
2	巻総合高等学校	.....	2
3	新津高等学校	.....	8
4	村松高等学校	.....	14
5	村上高等学校	.....	20
6	阿賀野高等学校	.....	26
7	正徳館高等学校	.....	32
8	栃尾高等学校	.....	38
9	吉田高等学校	.....	44
10	塩沢商工高等学校	.....	50
11	十日町高等学校	.....	56
12	久比岐高等学校	.....	62
13	羽茂高等学校	.....	65

## 県立新潟向陽高校

### 【テーマ】 単位制への改組に向けた魅力的な学校づくり

【目標】 平成32年度の単位制による全日制課程への改組に向け、次の4つのポイントを実現できるように準備していく。

- 1 進路実現を見据えた基礎学力の養成
- 2 探究的な学習による「主体的・対話的で深い学び」
- 3 ICTルームの設置による多様な学習形態の実現
- 4 週単位数の精査による放課後の有効活用

### 【取組の概要】

- 1 進路実現を見据えた基礎学力養成のための魅力的な教育課程を検討
  - (1) 魅力的で多彩な選択プランを設定し、生徒の意欲関心を高め、進路実現を図る。
  - (2) 国語・数学・英語において各年度3単位以上を全員必修とし、基礎学力を保障する。
- 2 探究的な学習による「主体的・対話的で深い学び」の実践  
各教科・科目で探究的な学習を進めるための環境を整備する。
- 3 ICTルームの設置による多様な学習形態の実現  
生徒用のタブレットiPad30台、教師用タブレットiPad Pro 2台、iPadの保護ケース、iPad保管ケース（充電可能）を購入・設置
- 4 全国単位制高等学校長等連絡研究協議会への参加

### 【取組の成果】

- ・ 単位制高校への改組に向けて、特色ある教育課程の検討を進めることができた。
- ・ 単位制高校の連絡研究協議会に参加することにより、単位制高校における様々な取組を知ることができた。
- ・ ICT機器の設置が整い次第、平成31年度に研修・授業実践を重ねる。

※ 県立新潟向陽高校は、令和2年度的全日制による単位制への改組に向けて、当課と連携して準備を進めています。

## 県立巻総合高等学校

**【テーマ】** 生徒の夢を叶えさせ将来の地域産業を担う人材育成の取組  
～「巻総CHAT」プロジェクトが地域を活性化する～

### 【目標】

- ① 「巻総CHAT」や高大連携授業により、生徒の課題解決能力の向上を図る
- ② 企業等との連携により、地域産業の理解と望ましい勤労観・職業観の育成を図る

### 【取組の概要】

- ①生徒による「巻総CHAT」プロジェクトを立ち上げ、地域貢献活動や様々な催事（イベント）に参加し地域理解を深める

〔主な活動内容〕

- ・緑花フェアカナル彩 ・巻夏祭り ・第29回全国産業教育フェア新潟大会プレ大会高校生クッキングコンテスト ・第1回県総合学科プレゼンテーション大会兼第29回全国産業教育フェア新潟大会プレ大会 ・TSKゴム動力自動車コンテスト2018
- ②新潟国際情報大学と連携した授業を実施
  - ③学校支援アドバイザー協議会を設置し、学校運営の改善を図る
  - ④地域企業（4社）の職場見学を実施
  - ⑤地域企業（7社）による「校内企業説明会」を実施
  - ⑥インターンシップに係る上級学校の視察（大学のキャリア支援体制を視察）

### 【取組の成果】

本校は、総合学科の特徴を生かし、職業に関する4系列（食料環境、工業、商業、生活文化）の生徒による地域貢献活動「巻総CHAT」プロジェクトを立ち上げ、地域の様々な催事（イベント）等に参加し、好評を得るとともに生徒の地域理解や問題解決能力の向上につながった。また、地域活性化をテーマに新潟国際情報大学と連携し、交流を深め、大学が生徒にとって益々身近なものになった。

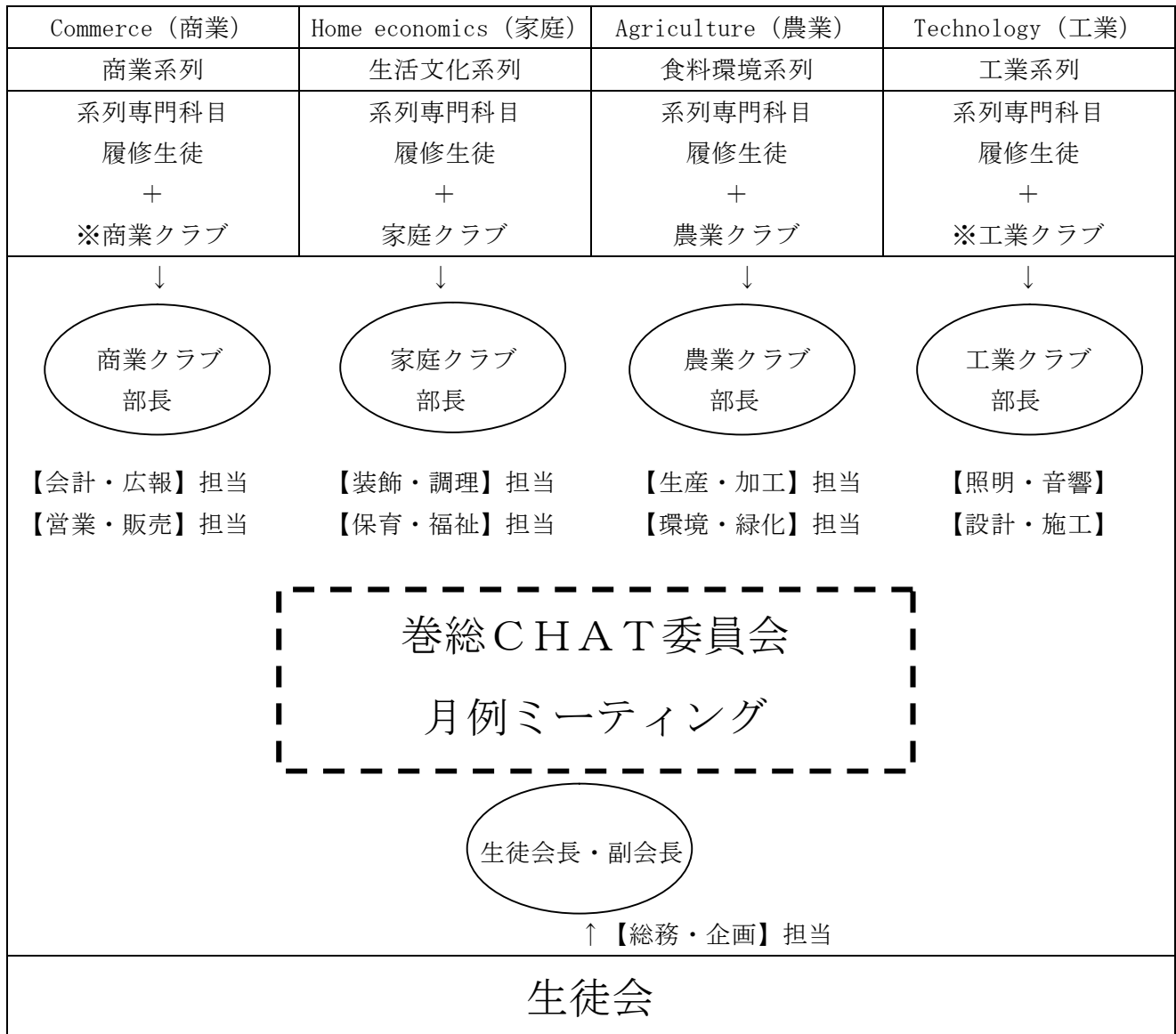
【平成 30 年度の取組】

1 「巻総CHAT」の取組

「巻総CHAT」とは

職業に関する4系列の教育環境や学習成果を生かした、生徒主体の地域貢献活動プロジェクトである。

〔組織図〕



※商業クラブと工業クラブは、「課題研究」等の専門科目履修生徒を充てる

〔地域からの支援体制〕

学校支援アドバイザー	関連分野	
●新潟市西蒲区（学校評議員）	巻総	地域産業振興
●新潟国際情報大学（学校評議員）	C	商業
●障がい児支援センター（学校評議員）	H	家庭
●JA越後中央（学校評議員）	A	農業
●明和工業株式会社（学校評議員）	T	工業

〔取組内容〕

① 緑花フェアカナル彩

期 日 平成 30 年 4 月 29 日 (日)  
場 所 デンカビッグスワンスタジアム周辺会場  
取組内容 食料環境系列の生徒が育てた花の販売



カナル彩で花の販売

② 巻夏祭り

期 日 平成 30 年 6 月 17 日 (日)  
場 所 巻夏祭り会場  
取組内容 「巻総CHAT」のメンバーに加え、生徒会や運動部も参加し、祭り会場周辺の清掃活動を実施した。「巻総、頑張ってるね」の声を多くの方から掛けられた。



巻夏祭り清掃活動

③ 第 29 回全国産業教育フェア新潟大会プレ大会高校生クッキングコンテスト

期 日 平成 30 年 8 月 7 日 (火)  
場 所 新潟市食育花育センター  
取組内容 3 年生 2 名が出場 テーマ「外国からのお客様のためのランチ」  
成 果 銀賞 (2 位) 受賞



作品名は「新潟&巻総合♥ ギュギュッとランチ！」



作品のプレゼンテーション

④ 第 1 回県総合学科プレゼンテーション大会兼第 29 回全国産業教育フェア新潟大会プレ大会

期 日 平成 30 年 9 月 11 日 (火)  
場 所 朱鷺メッセ  
取組内容 3 年生 6 名が出場  
発表テーマ「地域貢献と巻総CHAT」  
成 果 銀賞 (2 位) を受賞



第 1 回県総合学科プレゼンテーション大会

⑤ TSK ゴム動力自動車コンテスト

期 日 平成 30 年 10 月 28 日 (日)

場 所 群馬県高崎市もてなし広場

取組内容 工業系列の生徒 4 名が出場

成 果 他のチームにはないアイデア豊富な車両で、初出場のチームの中で唯一の完走を果たしたことが評価され「TSK賞」(特別賞)を受賞



開会式



一般・大学・高校の各チームが車両整備中



緊張のスタート



「TSK賞」(特別賞)を受賞

⑥ 朝光祭(文化祭)

期 日 平成 30 年 11 月 3 日 (土)

場 所 本校

取組内容 「巻総CHAT」の活動紹介・展示



ゴム動力自動車の展示



ジェルキャンドルの手作り体験



花・野菜の販売

⑦ 「巻総CHAT」の活動発表

期 日 平成 31 年 1 月 17 日 (木)

場 所 本校

取組内容 本校の学習成果発表会において、「巻総CHAT」の活動成果を発表



学習成果発表会

2 新潟国際情報大学と連携した取組

① 大学と連携した授業を実施

期 日 平成 30 年 7 月 18 日 (水)

場 所 本校

取組内容 2、3年生を対象に、新潟国際情報大学の小宮山准教授による授業を実施  
テーマ「高大連携による地域活性化に向けた取組」



新潟国際情報大学と連携した授業

② 新潟国際情報大学の授業見学

期 日 平成 30 年 8 月 27 日 (月)

場 所 新潟国際情報大学

取組内容 2、3年生が「プレゼンテーション技法」に関する授業を見学

3 学校支援アドバイザー協議会の設置

取組内容 学校評議員 5 名、本校職員 7 名で構成された協議会を設置し、学校評議員から学校運営に対する様々な意見や助言を受け、全職員の共通理解のもと、業務改善を図る指針とした。

4 地域企業の職場見学の取組

期 日 平成 31 年 2 月 21 日 (木)

場 所 地域企業 4 社

取組内容 2 年生 (198 名) が次の企業 (4 社) から 1 社を選び、見学した。  
パナソニック株式会社エコソリューションズ社ライティング事業部新潟工場、  
富士通フロンテック株式会社新潟工場、北越工業株式会社、外山工業株式会社

## 5 地域企業による校内企業説明会の取組

期 日 平成 31 年 2 月 15 日 (金)

場 所 本校

取組内容 1 年生を対象に、次の企業 (7 社) が来校し、企業説明会を実施した。

明和工業株式会社、北越工業株式会社、新潟ワコール縫製株式会社、越後中央農業協同組合、水倉組株式会社、新潟ダイヤモンド電子株式会社、株式会社末広製菓

## 6 インターンシップに係る上級学校の視察

期 日 平成 31 年 2 月 19 日 (火)

場 所 上武大学、人間総合科学大学

取組内容 本校職員が、キャリア支援体制が整う大学 (看護医療系学科) を視察し、本校が 2 年生で実施しているインターンシップ指導や進路指導に役立てる。

### 【巻総CHATに対する全校生徒の感想】

- ・巻総総合高校は、系列があるからこそ、色々な事ができると感じた。他系列とコラボをして相手との意見を共有するなど、自分の将来にも必ず役に立つことだと思った。
- ・巻総CHATの取組は、地域との交流により色々な経験をして、その学びを生かしていけるので、自分が社会の第一歩に近づいていると思いました。
- ・今までしてきた活動を振り返ると、各系列の人たちが一生懸命この一年で色々なことをしてきたのだなと考えさせられました。自分も来年は何か挑戦してみたいです。
- ・ゴム動力自動車を作った工業系列はすごいと思いました。フレームから作っていたのは、とても驚きでした。尊敬しました。

### 【総合所見】

本校は、4つの職業系列 (食料環境・工業・商業・生活文化) の特徴を生かした地域貢献活動として、「巻総CHAT」プロジェクトを中心に取組を進めてきた。各系列の特色を生かした様々な活動をとおり、地域の方々と触れ合う中で多くの方々から声をかけられ、学校への期待が大きいに気づかされた。生徒自身もこの活動をとおして地域からの期待を直に感じ取り、普段の学校生活の中で見ることができない生き生きとした姿を見せてくれた。このような経験が将来の地域社会に貢献する意欲につながり、本校キャリア教育の旗印である「生徒の夢を叶えさせ将来の地域産業を担う人材の育成」推進の原動力になるのだと感じた。

また、今年度の目標として掲げた3年次の「職業系列からの関連分野に進む者の割合を55%以上にする。」については、52.2% (食料環境 40.0%、工業 91.7%、商業 51.2%、生活文化 44.7%) となり、目標を達成することはできなかったが、巻総CHATに対する全校生徒の感想からも分かるとおり、様々な活動を肯定的に捉え、自分も何かに挑戦したいという気持ちを持ってくれたことは、大変喜ばしいことであった。この次につながる生徒達が、来年度以降の目標を達成してくれると期待する。

本校はこれからも、地域の様々な催事 (イベント) や活動に積極的に参加し、地域が抱える諸問題の解決に積極的に取り組み、生徒の元気を地域に届ける「元気の発信地」となるよう大学や学校支援アドバイザー協議会と連携しながら、社会に開かれた学校づくりに向けた更なる研究を推進していく。

## 県立新津高等学校

【テーマ】 「大学進学を重視した学究型の高校」を目指した学校づくり

### 【目標】

- 1 大学入試改革への対応及び国立大学合格者数の増加を図る
- 2 難関大学合格者の増加を図る

### 【取組の概要】

第1年次は、教員の意識改革、資質向上を図り、学校のグランドデザインを明確化するため下記の取組を計画した。

- (1) 新しい入試に対応する授業改善のために、教員の教科セミナー・入試研究会への参加を促し、教員の意識改革・資質向上を図る。
- (2) 「総合的な学習の時間」を改革し、課題探究型の活動を中核に据え、3年間の体系的な指導計画を作成する。そのために、先進的な活動をしている学校を視察し、探究型の活動の指導方法を習得する。
- (3) LHRでの生徒の「学習マネジメント」指導を模索する。
- (4) 特進クラスの特色化、普通クラスの個別指導のために、教員の難関大学の入試研究会や教科指導セミナーなどへの参加を促す。
- (5) 教科等で研修成果を共有する。また生徒からの授業評価の機会を設け、授業改善を検討する。

### 【取組の成果】

全国規模の研修会・研究会参加や学校視察で得た幅広い情報をもとに、校内でオープンな情報交換が進んだ。それが学校の課題、個々の意見・アイデアなどの可視化につながり、「今後の新津高校のあるべき姿」に対する議論が活発化してきた。

探究型の学習では、「思考法」や「探究の過程」などの「型」を意識した指導の徹底を図った。生徒の中に体系的に物事を考える意識が芽生え始めただけでなく、指導にあたる教員が試行錯誤を重ねる中で、教員同士の学び合いの機会が増えたことも1つの成果と考えられる。

特進クラスの特色化は、学力向上だけでなく「知的好奇心」醸成のリーダー育成としての意義も見られ、今後の特進クラスのあり方の指針として期待が持てる。

1 教員の意識改革、資質向上のための取組—研修会・研究会参加、先進校視察

(1) ねらい

- ①新しい入試に対応する授業改善のための資質向上
- ②探究型の活動指導のための指導方法の習得と意識改革
- ③難関大学志望者の学習指導の充実のための研修

(2) 内容

① 新入試に関わる研修会・研究会

平成30年 7月14日	第5回進路多様躍進校会議（全国進路指導協議会）
平成30年 8月 6日	教育研究セミナー（駿台予備校）
平成30年12月22日	進路多様躍進校会議西日本研究大会（全国進路指導協議会）
平成31年 3月28日	入試改革セミナー（筑波大学アドミッションセンター） 参加予定
平成31年 3月30日	教員研修（代々木ゼミナール）参加予定

② 「総合的な学習の時間」探究型活動に関わる研究会・先進校視察

平成30年10月27日	第7回探究学習研究会（玉川学園）
平成30年12月 4日	「Data Science Study」公開授業（新発田高校）
平成30年12月10日	未来の俊傑プラン学年発表会（新発田高校）
平成30年12月19日	S S探究及びE S D探究学年発表会（新発田高校）
平成31年 2月 7日	S P H事業成果発表会（加茂農林高校）
平成31年 2月23日	第5回S C Hシンポジウム（東北芸術工科大学）

③ 特進クラス、難関大学志望者への対応に関わる研修会・研究会

平成30年 8月 1日	1, 2年夏期学習合宿
平成30年 9月22日	東北大学入試研究会（河合塾）
平成30年11月17日	C E E S第4回シンポジウム（C E E S）

(3) 評価と検証

① 参加報告より

- ・実践的な教科指導法の研修だったのですぐに授業に取り入れてみたところ、生徒の取り組み状況に好感触が得られた。
- ・全国の高校の先生方と交流することで、新潟県の先進的な部分と後進的な部分が明確となり、今後の実践の指標になると感じた。
- ・探究学習を進めるにあたり、論理的に考えさせる技、情報整理の技を身につけさせることが必要ではないか。またデータ分析・統計活用については具体例を持ちながらグラフ作成・読み取りを練習させる必要を感じた。
- ・変化が著しい今後の社会では、一生学び続ける姿勢と、学ぶ方法を見につけさせる指導が必要である。

② 評価と検証

参加した教員が得た様々な情報を共有することで、教員集団全体の視野が広がり、多角的な意見交換ができるようになった。

## 2 「総合的な学習の時間」の改革

### (1) ねらい

自分で思考し主体的に活動することに対する意識を高めるため、総合的な学習の時間を有効に活用することが検討された。

「社会の一員としての自覚を持ち、どのような分野においても次代の社会を創るという観点から課題を見出し、他者と協働して課題解決に向かう普遍的な態度と能力を育成する。」ことを目的とし、新津高校としての3年間の体系的・継続的な「総合的な学習の時間」のプログラムを作った。1年生は「社会を繋ぐ」、2年生は「学問を拓く」、3年生は「進路を創る」をテーマに、課題探求型の学習を中心とした活動を実施した。

### (2) 内容

#### ① 外部との連携

ア 1年生対象 社会人講演会・社会人出前講座

○社会人講演会 日時 平成30年5月28日(月) 講師 ナミックス株式会社 佐藤晃一氏

○社会人出前講座 日時 平成30年9月27日(木)

内容 8分野の講座を設定し、生徒が希望により1分野を選択

地域の課題を知り課題解決学習につなげることを目的として実施

分野	テーマ	講師
政治経済	租税教室	関東信越国税局主任税務相談官 大原一也氏
法律	主権者教育	にいつさつき野法律事務所 佐々木智之氏
行政	新しい都市づくりについて	新潟県土木部都市政策課 鈴木一義氏 沢村直紀氏
国際	JICA 国際協力出前講座	平成27年1次隊(フィリピン) 青木淳子氏
医療福祉	新潟県の地域保険医療計画について	新潟県福祉保健課 渡辺直彦氏
教育	人権教育・同和教育について	新潟県教育庁高等学校教育課 大島博文氏
環境防災	ハザードマップ策定について	五泉市役所総務課 嘉村雅和氏 伊藤誉明氏
科学技術	新エネルギーの導入事例と新潟県の取組状況	新潟県産業労働観光部産業振興課 渡辺朗礼氏

#### イ 2年生対象 大学講義体験

日時 平成30年6月18日(月)

内容 8講座を設定し、生徒は課題研究の分野ごとに1講座を受講

大学の講義を体験するとともに「課題研究」の基調講座として実施

テーマ	講師
日本語学習者と日本語教育の方法 ーケース教材を用いた日本語の授業ー	新潟県立大学国際地域学部 准教授 宮崎七湖先生
国際政治について	新潟県立大学国際地域学部 講師 上村威先生
地域と企業	新潟県立大学国際産業経済研究センター教授 細谷祐二先生
乳幼児とのコミュニケーション	上越教育大学学校教育学系 准教授 白神敬介先生
運動遊び	上越教育大学芸術・体育教育学系 准教授 榎原潔先生
大学とはどういうところか ～高校と大学での勉強の違い～	新潟薬科大学応用生命学学部 教授 重松亨先生
探究学習とはどのようなものか 電子を利用して分子の部品を作る試み	新潟大学理学部理学科 教授 湯川靖彦先生

## ② 課題探究活動

### ア 1年生「課題解決学習」

社会人出前講座で各分野の地域の問題を知り、そこからグループごとに課題を発見し、課題解決の方策を探究した。その後、クラス発表会を開催し、成果を共有した。活動をとおして、課題発見の仕方や解決までの過程を理解し、論理的に思考し表現する型を学んだ。

### イ 2年生「課題研究」

希望分野を選択し、その中でグループごとに自分たちで設定した課題について研究した。成果の共有として分野ごとの発表会を実施した。活動をとおして研究の過程を経験し、論理的に思考し表現する型を実践した。



## (3) 評価と検証

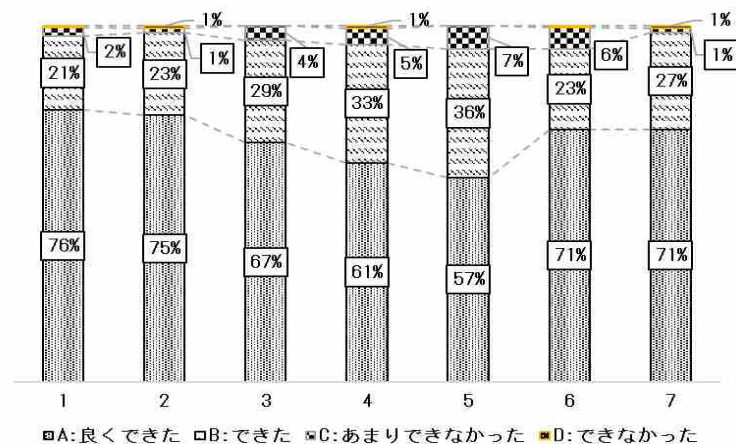
### ①生徒の自己評価

#### 《1年生感想》

- ・“根拠を挙げ、問題の解決策を見つける事。色々な情報から関連性のあるものを見つける事。段階を踏む事”が大切だとわかった。
- ・問題が複雑化している現代では、1つの問題を解決するのにたくさんの知識が必要であると感じた。他の班のリサーチクエスチョンや解決方法とつながるところも多くあった。
- ・教科書を読んだり、授業を受けていたりするだけではよくわからない、地域のリアルな現状を知ることができてよかった。より深刻な問題を深く考える事ができた。



#### 《1年生アンケート結果》



- 1 意欲をもって積極的に活動に取り組んだ。
- 2 関心を持って社会人出前講座を受講できた。
- 3 課題を発見し、情報収集から整理分析し、課題解決策を見つけるまでの過程を理解できた。
- 4 テーマについて必要な情報を的確に調べることができた。
- 5 調べた情報を整理し、どう組み立てたら論理的になるかを考え、解決策を導き出すことができた。
- 6 課題解決に向けて、班のメンバーと協力して取り組み、自分の役割を果たすことができた。
- 7 他の班の発表を見て、内容について考え、的確に評価できた。

#### 《2年生感想》

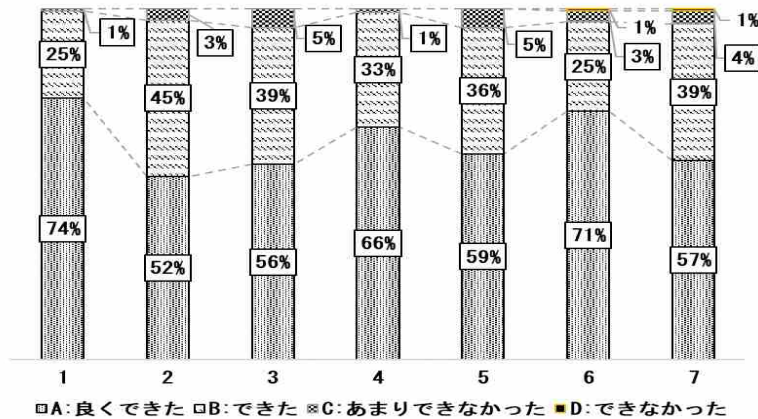
- ・アンケートを行い分析している班のデータに裏付けられた考察は素直にすごいと思った。自分の足で得た情報だと信頼性も高く、なにより説得力が抜群だ。参考にしたい。データを分析するときには小さくても気になったことや共通点は意識しておくべき。
- ・アンケートを取ってみると予想に反した結果だったので考察するのが面白かった。
- ・考察の時に全員がしっかり意見を述べていたので、自分が気づかなかったことを他の班員がみつけていることがあり、なるほどと思いました。



・身近な地域でも深い歴史が地域の土地や人とのつながりを持っている。新しいものへの便利さだけでなく、古いもの、もういらな  
ないと思っているものにも光を当て、それらが持つ有用性や意味  
を再発見していくことは大切であると感じた。



《2年生アンケート結果》



- 1 班の研究テーマの内容、背景を深く理解しようと努めた。
- 2 テーマについて必要な観点から幅広く調べ、文献や情報を活用することができた。
- 3 調べた情報から、研究テーマについて論理的に考察し、結論を導き出すことができた。
- 4 レポート作成、発表に向けてまとめる作業を通して、研究テーマの内容について理解を深めることができた。
- 5 みんなに伝わる発表になるように心掛けた。
- 6 発表に向けて、班のメンバーと協力して取り組み、自分の役割を果たすことができた。
- 7 他の班の発表を聞き、その内容について理解しようと努め、意見交換することができた。

## ② 評価と検証

生徒の取組状況は、アンケート結果のとおり概ね良好である。感想からも、活動前後の意識の変化がうかがえる。1, 2年生ともに、探究の過程は理解できたものの、探究したことを論理的に組み立てて行くことの難しさを実感していることがわかる。しかし、それが自分たちの課題だと認知できれば、今後の活動に向けての目標が明確になる。気づきを促すことが重要だと考える。

## 3 特進クラスの特色化

### (1) ねらい

国公立大学や難関大学への進学を希望する生徒を支援し、学習意欲や高校生活すべてにおいて新津高校の中心的役割を果たす生徒の育成を目指す。

### (2) 内容

- ① 夏期合宿 目的 国公立大学や難関大学への意欲向上と質の高い学習習慣の確立  
日時 平成30年8月1日(水)～3日(金)  
場所 月岡温泉 ホテル泉慶  
対象 1, 2年生特進クラス、普通クラス希望者

### ② 平常時講習

### ③ 難関大学向け模擬試験の全員受験

### ③ 外部講習会参加(数学オリンピック・理数トップセミナー・イングリッシュセミナー 等)

### (3) 評価と検証

校外模試結果を見ると、1, 2年生ともに特進クラスの学力の向上が見られている。上記活動が生徒個々の学習習慣の定着につながり、学習時間が安定して確保されていることが、要因であると考えられる。また、特進クラスが「知的好奇心」醸成のリーダー的存在になりつつあり各種外部講習会等への参加者は普通クラスを取り込み、格段に増加している。更に、有志で研究に取り組み、統計グラフ全国コンクールで入選を果たした生徒も出ている。

参加者数の推移	理数トップセミナー	数学オリンピック	各大学主催高校生講座	イングリッシュセミナー	各種医療体験
平成29年度	6人	8人	0名	0名	13名
平成30年度	35人	36人	2名	5名	21名

## 4 取組の成果

### (1) 数値目標の達成状況

#### ①達成状況（目標→結果）

- ・ 1年1月模試 偏差値 68 以上 5人、58 以上 50人  
→ 偏差値 68 以上 1人、58 以上 30人
- ・ 2年1月模試 偏差値 68 以上 5人、58 以上 50人  
→ 偏差値 68 以上 11人、58 以上 42人
- ・ 合格者数 国公立大学 80人、（うち難関大学 5人、新潟大学 30人）→  
国公立大学 54人（うち難関大学 2人、新潟大学 14人）

#### ②評価と検証

来年度以降、授業改善につながる「生徒授業評価」の実施が必要である。

1年生は数値目標達成に向けて、家庭学習時間の少なさが要因であると分析しており、学習習慣の定着を図る指導を模索中である。

### (2) 変化が感じられる生徒の感想（探究アンケートより）

- ・ 社会の中の課題を見つけることが難しく、何度も何度も考え直したおかげで、今必要なことは何かなどを考える力がついた。
- ・ フィッシュボーンを使用することで課題解決に近づくことができた。これからはシンキングツールを使用することで課題解決への意欲が生まれると思う。
- ・ 自分の中で周囲に対するイメージが変わった。思ったより自分のいる所は問題があり悩んでいる人がいて、それを知らない人が多くいる事を知った。
- ・ 特に関心がなかったようなことでも前向きに調べたり、話したりするようになった。
- ・ どうすれば理想に近づけるか考えるようになった。

## 5 総合所見

### (1) 総括

#### ①学校の変化

今年度の活動を経て、教員集団の姿勢は大きく変化したと考える。全国規模の研修会・研究会参加や学校視察で得た幅広い情報をもとに、校内でオープンな意見交換が進み、それが学校の課題などの可視化につながっていき、今後の新津高校のあるべき姿に対する議論が活発化してきた。また、課題探求学習の指導にあたる教員が試行錯誤を重ね、情報交換、情報共有する中で教員同士の学び合いの機会が増えた。生徒の変化については、前項（2）の感想のとおりである。探究型の学習をとおして、生徒の中で体系的に物事を捉える意識が芽生え始め、社会にも目が向くようになった。この気づきが、学びに向かう力になっていくよう働きかけることが大切である。

#### ②課題

今年度の活動の成果を、具体的な数値目標にどうつなげるかが課題である。

### (2) 次年度以降の展望

学校のグランドデザインを明確にし、それを共有することで共通理解を図り、改革を実践する。

- ① 生徒の主体的な活動を中心とする授業展開や特進クラスの個別指導など、生徒の学びの質の向上を図る。また、生徒自身の学習マネジメント力を育成する。
- ② 「総合的な学習の時間」での探究型の活動の質を高める。
- ③ 地域、中学校などとの連携を図るとともに、生徒の外部への成果発表の機会を増やす。

## 県立村松高等学校

**【テーマ】** 地域と連携した進路実現を目指して  
～地域と共にUP～

### 【目標】

これまでの本校の取組を活かしながら、地域人材や地域資源を活用した教育活動の可能性を広げ、地域のニーズに応えた人材育成を目指す。また、計画実施にあたっては、生徒のやる気を引き出し、生徒の夢を叶えさせる進路指導の実践によって、学校の活性化、魅力化につながる教育活動となるよう取り組む。

進路意識の啓発を行うことで、自らの課題を発見し解決に向けた取組ができるよう、総合的な学習の時間の充実を図る。

### 【取組の概要】

- ・ 1年生を対象とした高校生活についての講演会の実施
- ・ 1年生を対象とした自己管理手帳を導入してのポートフォリオの作成
- ・ 1年生を対象とした生徒理解調査の実施
- ・ 1年生を対象とした上級学校見学の実施
- ・ 2年生を対象としたインターンシップ事前指導の実施
- ・ 3年生を対象とした企業等説明会の実施
- ・ ボランティア活動と地域交流の実施
- ・ 取組の成果発表会の実施

### 【取組の成果】

#### ○進路意識の啓発

- ・ 上級学校を見学することで、卒業後の進路として大学への進学に関心を持つ生徒が増加した。
- ・ 医療・看護系講演会を開催したことで、医療に関わる多様な職種を理解し、進路選択への視野が広がった。

#### ○地域連携への意欲

- ・ 生徒の地域連携に対する関心が、学校行事の中で反映されるようになった。

## 1 自己管理手帳の取組

### (1) 目的

生徒が自分自身の学びの記録の蓄積を一覧することにより、どのような学びのプロセスを経て成長していったかを読み取っていくことができるように実施する。

### (2) 実施状況

既製の手帳を1年生一人一人に購入し、講演会や委員会・部活動等での自らの気づきなどを記録するよう指導し、担任との面談等で活用する。

〈具体的な活用場面〉

「新入生意識啓発講演会」「携帯、スマホ安全教室」「進路の手引き説明会」「交通講話」「保健指導」「職場見学」「上級学校見学」「人権教育講演会」「分野別進路ガイダンス」

### (3) 生徒の様子

ポートフォリオの意味をなかなか理解できずにうまく記入できない生徒も見られたが、多数の生徒は趣旨を把握し、より具体的に記入しようと努力する姿が見えた。



### (4) 成果と課題

1年間継続することで、自分自身の成長を実感できている生徒も見られた。一方、ポートフォリオの意味がなかなか理解できない生徒に継続して趣旨を理解させ積極的に取り組んでいけるように支援していく必要性も感じられた。支援の仕方等を工夫しながら、今後も継続して生徒の意欲の向上、記入内容の充実を図っていく。

## 2 講演会の実施

### (1) 新入生進路意識啓発講演会【1年生】

#### ア 目的

新入生に高校生活の過ごし方を説くことを通して、高校生としての自覚を芽生えさせる。また、自身の生き方・在り方について考えさせる。

#### イ 実施状況

実施日 平成30年4月18日(水) 6・7限

会場 本校視聴覚教室

講師 新潟会計ビジネス専門学校

副校長 平 博之 様

演題 「人との出会いでこころ上手にからだ上手に」  
～進路実現に向けての心構え～



#### ウ 生徒の様子

入学後間もないこともあり、多くの生徒が緊張感をもち、真剣に話を聴いていた。「どんな気持ちでこれからの生活を送っていったらよいだろうか」という講師の問いかけに対し、反応に困っている様子も見られたが、その後の話を集中して聴き、何が大切かを理解しようと努め、充実した時間を過ごせたようである。

#### エ 成果と課題

入学後間もない緊張感のある時期にこのような話を聴く機会を設けることができ良かった。多くの生徒は顔を上げ一生懸命に話を聴いていたが、継続的に「話を聴く」ことの大切さを丁寧に指導する必要がある。

(2) 「マナー講習」 (インターンシップ事前学習) 【2年生】

ア 目的

夏季休業中に行うインターンシップに向けて、マナー全般の重要性を理解させる。

イ 実施状況

実施日 平成30年7月11日(水) 6・7限

会場 本校第2体育館

講師 新潟ビジネス専門学校 教務部 加藤 佐知子 様

演題 インターンシップ先でのマナー向上にむけて

ウ 生徒の様子

インターンシップ直前でもあり、全員緊張感をもって聴いていた。自分の意思を十分に伝えるための、適切なタイミング・声の大きさ・内容等について学び、マナー全般を見直すきっかけとなったようである。

エ 成果と課題

挨拶については、自分ではできていると思っている生徒も多いが、現状は不十分である。今後は日常生活の中でも活かしていけるような指導が必要である。

(3) 面接対策講演会 【2年生】

ア 目的

就職試験・入学試験における面接の重要性を理解させるとともに、基本的な面接のマナーを身につけさせる。

イ 実施状況

実施日 平成31年1月23日(水) 6限

会場 本校視聴覚教室

講師 新潟ビジネス専門学校 教務部次長  
平馬みどり 様

演題 面接を受けるうえでの心得

ウ 生徒の様子

講師の講演を真剣に聴いていた。前半は面接に向けての心得、後半はビジネスマナー全般について指導していただいた。日頃の甘さを痛感した様子も見受けられた。

エ 成果と課題

進学希望・就職希望にかかわらず、面接に向けた対策は重要性を持っており、その方法を学ぶことは有意義であった。今後は、習得したマナーを実践できるよう日々の生活を見直すことに結びつけていくことが必要である。



(4) 医療・看護系講演会 【1・2年生】

ア 目的

医師や看護師の仕事内容や、病院施設における多様な仕事等についてご紹介いただき、生徒自身が進路をより深く考える契機とする。また、地元への就職を希望している生徒はもとより、多くの生徒に地元に貢献する、あるいは社会に貢献する意識を醸成させる。



## イ 実施状況

実施日 平成 30 年 10 月 3 日（水） 6 限  
会 場 本校第 1 体育館  
講 師 南部郷総合病院 院 長 梨本 篤 様  
看護部長 吉澤 浩子 様  
演 題 五泉市の医療状況と医療系職業について



## ウ 生徒の様子

看護系の進路を希望している生徒はもちろん、多くの生徒が医療に関わる職種の多さを再認識し、興味深く聴いていた。

## エ 成果と課題

進路選択の幅を広げるとともに、自己の進路について考えるよい機会となった。地元への就職を希望し実現させていく生徒が多いなか、地元への貢献という視点で就職をとらえるよい機会となった。今後は、更に地元との連携を深めた内容を検討したい。

## 3 上級学校の見学

### (1) 目的

1 年生のうちに大学・短大・専門学校等の上級学校を見学することにより、進路実現のために、進学という選択肢もあることを意識させる。

### (2) 実施状況

実施日 平成 30 年 8 月 27 日（月）  
見学先 ①新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部  
②新潟柔道整復専門学校  
③新潟工科専門学校  
④国際ビューティーモード専門学校  
⑤国際医療福祉カレッジ



内 容 1 学年の 2 クラスを対象に実施し、上記①を共通の見学先とし、他②～⑤を 2 班に分けて、各班が合計 3 カ所を見学できるように実施した。

### (3) 生徒の様子

夏季休業期間中であつたが、ほぼ全員が参加できた。人数の都合で 2 コースに分かれることになったがどのコースにおいても短大、専門学校の先生方の説明を一生懸命に聴く姿勢が見られた。特に新潟青陵大学は充実した設備に圧倒されているようであつた。案内していただく先生方の指示に従い、素早く行動する生徒たちの様子もうかがえて充実した内容であつた。

### (4) 成果と課題

教室内での授業が多い本校の生徒にとっては、大学、短大、専門学校と各分野に特化した施設を見学できたことで、自分の進路への意識を高めるよい機会としてとらえた生徒が多く見られた。見学した学校に進学してみたいと具体的な希望を持つ生徒もおり、進路学習としては多くの生徒が具体的に自己の進路を考える素晴らしい機会となった。ただし、他の進路先を考えている生徒に対して充実した内容となるような工夫も今後検討する必要がある。

## 4 五泉市合同企業説明会

### (1) 目的

地元企業の職場の雰囲気や事業内容などを理解するとともに、直接卒業生の話を聴くなどして

求人票では得られない情報を収集して実際の就職活動に向けて意識を高めさせる。

## (2) 実施状況

実施日 平成 30 年 6 月 20 日 (水)

会 場 本校第 1 体育館

内 容 参加していただいた企業の担当者から、1 回 25 分の説明を 3 回していただく。

3 年生参加生徒は、希望する 3 社の説明を聴き、質問をする。

## (3) 生徒の様子

本校生徒 47 名と五泉高校の生徒 35 名が希望する企業の説明を聴いた。1 つのブースに 2～8 名の生徒が集まり、熱心に説明を聴きメモを取る姿が見られた。また、各ブースへのスムーズな移動や挨拶、積極的に質問をする様子は、企業の方にも好評であった。

## (4) 成果と課題

本校では例年約 6 割の生徒が五泉市内あるいは自宅から通勤可能な企業に就職を希望している。そのように地元で就職を希望する生徒には地元企業を知るよい機会であった。説明会后、レポートを作成し応募企業を選択する際の資料とした。その後、企業見学を経て同企業に応募する生徒もいた。また、地元企業の紹介だけではなく業種の理解という面で他地域の企業に就職を希望する生徒にとってもよい機会となった。



## 5 ボランティア活動と地域交流

### (1) 目的

ボランティア活動を通して地域社会の一員である事を自覚し、生徒がよりよい社会を作るための活動に自主的・自発的に取り組む。



〈手作りすごろくで盛り上がりました〉

### (2) 実施状況

ア 活動主体 本校のインターアクト部

イ 活動状況 〈訪問活動〉毎週、地域の高齢者福祉施設 4 カ所と障がい者地域生活支援センターの合計 5 カ所を訪問し交流活動を行ったり、夏休み等を利用して保育園を訪問したりしている。

〈参加活動〉募金活動、地域の清掃活動、祭りや行事、福祉イベントや、認知症サポーター養成講座、県や市で開催されるボランティア講習会に参加している。

〈そ の 他〉生徒の発案で年末には学校周辺の一人暮らしの高齢者宅へ手作りのプレゼントを手渡しして回っている。

このような活動を新潟県ボランティア大会、中学生体験入学、地区合同高校説明会において発表し、ボランティア人口が増えるよう啓発活動にも努めている。地域の中学生や県内の高校生と交流しボランティアに対する意識を高められるような自発的な活動を目指している。



### (3) 生徒の様子

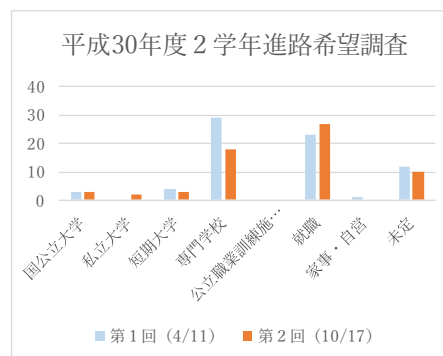
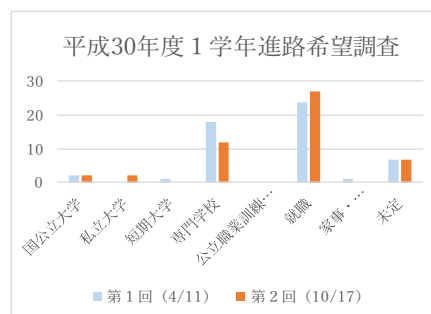
ボランティア活動を通して、学校では得られない「出会い」、「気づき」、「学び」があり、出会った人々の考え方や生き方から自分自身の生き方や進路などについて考えるなど、地域や社会で起きている諸問題に気づくとともに自身の生活を見つめ直すよい機会となっていた。

#### (4) 成果と課題

地域の施設訪問や行事などのボランティア活動を継続的に行うことで、地域とのつながりがより一層強いものとなっている。また、互いの信頼関係が構築されることで、さまざまな活動への手助けをいただいている。活動を続けるためには施設職員や行事主催者の多大な理解と協力が必要となる。訪問先でのマナーや言葉遣い、相手への気遣い方など、ボランティア活動が一方的な思いやりの押しつけにならないようきちんと指導していく必要がある。

### 6 取組の成果

- ・生徒理解調査において、テストバッテリーM2+（田中教育研究所）を実施することで、生徒は自己理解を深める契機となった。教員は生徒の学校適応状況等、生徒の個性をとらえ、面接指導等に役立てることができた。
- ・1年生の上級学校見学や1、2年生合同進路講演会の実施により、大学進学に興味をもつ生徒が微増した。
- ・1、2年生合同で実施した医療・看護系講演会により、生徒の中には多様な職種が病院等医療に関わることを知り、将来の進路先として地元の医療現場に貢献する道を考えるようになった者もあり、進路選択の幅が広がった。
- ・自己管理手帳については、講演会等で手帳にメモをとりながら講師の話を聴く生徒も見受けられ、徐々に有効な活用の仕方が浸透してきている。メモを活用することで、講演会後に課される感想文へもスムーズに取り組むことができる生徒が増えた。



### 7 総合所見

#### ・自己評価結果

右の表は、2月に実施している「学校生活等に関する意識調査」（1、2年生対象）での、「高校卒業後の進路希望は決まっていますか」に対する回答のうち、「決まっている」（「漠然と」も含む）の回答の割合を示している。今年度については総計が69.3%となり、目標に設定した75%に及ばなかった。ただし、1年生が過去3年間で最も高い数値となっていることから、本取組の継続によって一層の進路に対する意識の高まりが期待できる。

#### ・地域連携の意識

右は、今年度の臥龍祭こと本校の文化祭のPRポスターで、臥龍会（本校の生徒会）が作成したものである。本取組のサブタイトルにも使用した「地域と共に1UP」は、この臥龍会のアイデアである。地域との連携を念頭に、地域と共に発展する松高でありたいという生徒たちの思いが実を結ぶよう、地道な取組を継続していきたい。

「学校生活等に関する意識調査」

	H28	H29	H30
1年	54.5	66.7	68.0
2年	72.6	78.0	70.3
総計	62.8	72.7	69.3



## 県立村上高等学校

**【テーマ】** 村高イヨボヤプランの実践  
～進路実現に向けた環境整備と主体的な学習の推進～

### 【目標】

- 1 特別進学クラスの導入や授業力の向上と教科横断的な指導を軸としたカリキュラム・マネジメントを推進し、大学入試改革及び新学習指導要領に対応した教育課程を編成する。
- 2 様々な地域探究学習をとおして地域に貢献できる人材を育てるとともに、主体的に学ぶ態度及び協働して課題解決に取り組む資質を身に付け、多様な進路希望の実現を図る。
- 3 国公立大や難関私立大学をはじめとする進路希望実現のため、海外修学旅行での英語によるプレゼンテーションなど、多くの学習機会を提供することで英語4技能の総合的な向上を図る。

### 【取組の概要】

- 1 新学習指導要領に対応した教育課程編成に向けた取組
  - (1) 先進的取組を実施する学究型高校視察による研修
  - (2) 大学進学に向けた意識啓発のための保護者対象講演会
- 2 地域探究学習の推進
  - (1) 事業所訪問や市議会議員との懇談等を通じた地域の課題発見に向けた学習
  - (2) 村高ゼミを通じた地域活性化のための提言作成
- 3 英語4技能の総合的向上
  - (1) 海外修学旅行での現地校との交流会を活用した英語によるプレゼンテーション
  - (2) 英語力及びプレゼンテーション力向上のための講習会

### 【取組の成果】

- ・ 村高イヨボヤプラン委員会が機能したことにより、校内連携をよりスムーズにした取組が実践できた。新たな教育課程を推進していく上で、貴重な材料を得ることができた。
- ・ 村高ゼミ等を通じて主体的な活動を推進した結果、自らの考えをまとめ、発表することにおいて明らかな成長がみてとれた。また、ボランティアとして地域行事に参加する生徒が大幅に増えるなど、地域の一員であるという意識が高まった。
- ・ 海外修学旅行での現地高校での交流会では、多くの生徒が英語の必要性を実感することができ、興味、関心が高まったことから、進路実現に向けて意欲的に英語学習に取り組んでいる。

## 1 新学習指導要領に対応した教育課程編成に向けた取組について

### (1) 先進的取組を実施する学究型高校視察による研修の実施

#### ア 目的

進学実績に優れた県外の高等学校を訪問して大学入試改革に対応したカリキュラム・マネジメント、進路指導の実際について研修する。

#### イ 期日及び訪問校

- ・ 石川県立大聖寺高等学校  
11月13日（火）13：10～15：10
- ・ 石川県立野々市明倫高等学校  
11月14日（水）9：30～11：30
- ・ 長野県篠ノ井高等学校  
11月14日（水）13：00～15：00
- ・ 群馬県立沼田高等学校  
11月15日（木）9：30～11：30

ウ 訪問者 本校進路指導部 2名×2隊

エ 対応者 主に教頭、進路指導主事



### (2) 大学進学に向けた意識啓発のための保護者対象講演会の開催

#### ア 目的

保護者の地元志向が強い中であって、専門の講師から講演していただくことで、将来の目標実現のために大学へ進学することの意義やメリットについて知ることで意識啓発を図る。

イ 期日 11月25日（日）

ウ 会場 村上市情報センター

エ 参加者 1年保護者35名、2年保護者48名、3年保護者74名

## 2 地域探究学習の推進について

### (1) 事業所訪問や市議会議員との懇談等を通じた地域の課題発見に向けた学習の推進

#### ア 目的

高校生の視点から改めて地域産業を学び、職業意識を高めるとともに、課題の発見に努め、他者と協力しながらその課題を解決していこうとする意識を高めることで、地域活性化に貢献できる人材を育成する。

#### イ 活動の流れ

- 9月28日（金） 事前学習1 ・訪問予定の事業所・職種の基本情報や業務内容を知る
- 10月5日（金） 事前学習2 ・業務の魅力、課題などについて考える
- 10月12日（金） 事業所訪問
- 10月26日（金） 事後学習1
  - ・発表内容や発表方法の確認
- 11月16日（金） 事後学習2
  - ・発表ポスター作成、リハーサル
- 11月30日（金） 事業所訪問発表会
  - ・ポスターセッション
- 1月18日（金） 高校生と市議会議員との懇談会
- 2月下旬 小論文指導



- ・ 事業所訪問や議会との懇談会からの気づきを文章化

3月18日（月） 村上フォーラム

- ・ 相互評価で選ばれた5班が学習内容を発表

ウ 対象 1学年

エ 事業所訪問先

地元企業、幼稚園、市役所、農協協同組合、商工会議所など14か所をグループに分かれて訪問



## (2) 村高ゼミを通じた地域活性化のための提言作成の取組

ア 目的

大学教授の指導、助言をいただきながら地域の資源を生かした魅力的な街づくりについて多角的にとらえることで思考力・判断力の育成を図るとともに、地域活性化に貢献しようとする人材を育てる。



イ 活動の流れ

6月22日（金） 概要説明

7月3日（火） 探究テーマの設定

7月6日（金） 村高ゼミ開始

各分野を専門に研究している大学の先生をアドバイザーに迎え、テーマ設定や探求学習の進め方についてアドバイスをもらう。

7月20日（金） 情報収集の方法検討及び役割分担

7月30日（月） 村上市長とのふれあいトーク：村上市長に市の現状や取組を質問

プレゼンテーション方法ガイダンス：外部講師を迎え、効果的なプレゼン資料の作成方法やプレゼン方法について学習

9月～11月 調査、研究の成果を活用して提言へとつなげ、パワーポイントにまとめる。

11月30日（金） 村高ゼミ発表会兼村上フォーラム予選会

3月18日（月） 村上フォーラム

ウ 対象 2学年

## 3 英語4技能の総合的向上

### (1) 海外修学旅行での現地校との交流会を活用した英語によるプレゼンテーションの実施

ア 目的

村上を伝えるための英語によるプレゼンテーションをとおして、プレゼンテーション能力や情報の発信力を身に付けるとともに、英語4技能を総合的に伸ばす指導を推進し、大学入試に対応できる力を育成して希望進路の実現を図る。

イ 活動の流れ

4月24日（火） 校外学習

5～6名のグループに分かれ、村上市内の事業所訪問を実施。

これを機に海外修学旅行でのプレゼンテーションに活用するための「絵はがきプロジェクト」をスタート。9月の学園祭で完成した絵はがきを披露した。

- 7月27日(金) JAMES英会話
- 11月28日(水) 中国語講座
- 12月10日(月) 直前指導
- 12月13日(木) 海外修学旅行での現地校との交流会

ウ 対 象 2 学年

**(2) 英語力及びプレゼンテーション力向上のための講習会の開催 ～英語コミュニケーション能力向上プロジェクト～**

ア 目 的

英語学習の意義について学ぶことで、英語検定の受検者増加など、高大接続改革に対応した英語力向上を図るとともに、次年度に予定している英語圏でのプレゼンテーションに繋げていく。

イ 期 日

- ① 英語での発信に慣れる(授業内でのミニプレゼンテーション)
  - 5月2, 9日(水)、30日(水)、6月13日(水) 日本の食べ物
  - 5月30日(水)、6月13日(水) 日本の名所
- ② 伝わる話し方や表現を考えながら話す(ALTをまじえてのパフォーマンステスト)
  - 6月20,27日(水) 私にとって学校とは(スピーチ)
  - 7月30日(月)、9月12,19日(水) 人物紹介(スピーチ)
  - 2月27日(水) 日本紹介(ミニプレゼンテーション)
- ③ 伝えるコツ、技術、心構えなどを学ぶ(講演会等)
  - 1月25日(金) 講習会 安曾潤子先生
  - 2月22日(金) ワークショップ 安曾潤子先生
  - 3月4日(月) 講演会  
田名部実里先生

ウ 対 象 1 学年



**4 取組の成果**

**(1) 新学習指導要領に対応した教育課程編成に向けた取組について**

高校視察では、本校と規模や地理的な条件が似ている学校を研修したことにより、特進クラスや習熟度別クラスの導入に向け、検討を重ねていくうえで大きな収穫を得ることができた。幅広い学習層にどのように対応していくかについて議論を重ねることで、今回の成果を新学習指導要領に対応した教育課程の研究に生かしていきたい。

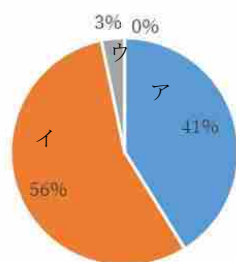
保護者対象講演会では、保護者の意識啓発を図り、学校、家庭が一体となった進路指導を目指すよい機会となった。

**(2) 地域探究学習の推進について**

1学年が取り組んだ事業所訪問や市議会議員との懇談等を通じた地域の課題発見に向けた学習では、「地域社会を知るためのキャリア教育講演会」を経て実施したこともあり、生徒の積極的に取り組む姿が見られた終了後のアンケートでは、以下のとおり、高い効果が感じられた。

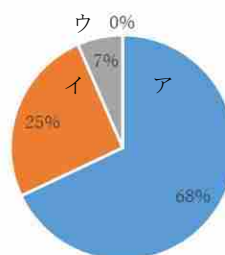


1 「地域の一員」の意識の深まり



ア 大変深まった    イ 深まった  
ウ あまり深まらなかった  
エ 深まらなかった

4 「地域の課題」の発見



ア 見つけた    イ 今後見つけられそうだ  
ウ よくわからない    エ 見つからなかった

2 学年が取り組んだ村高ゼミによる探究学習では、地域をより深く知ることのほかに、探究学習のプロセスやラーニングスキルを身に付け、大学等での学びにつなげていくことも重要な目的としており、生徒たちは予想していた以上に真剣に取り組んでいた。探究学習をとおして自己の進路希望が定まったり、志望分野に対する理解が深まったりした生徒もあり、進路を考える一助にもなったようである。



また、班でひとつの論題に取り組み、自分たちなりの答えを出すという経験も、「視野が広がった」「皆で協力して作り上げることが楽しかった」という感想が多かった。

7月に行った「村高ゼミ」では、従来の模擬講義形式に加えて、大学の先生方から探究学習についての具体的なアドバイスをいただく時間を設けた。大学での学び（ゼミ）を体験できる機会になり、好評だった。

### (3) 英語4技能の総合的向上について

海外修学旅行での現地校との交流会での英語によるプレゼンテーションでは、生徒は英語の必要性を改めて理解するとともに、英語学習への意欲が高まったようである。

主な感想は以下のとおり。

- ・ 現地校の生徒は皆英語がペラペラに話せていたので、これからは英語の授業はもちろんのこと、それ以外の時間でも英語と触れている時間を長くして、外国の人とコミュニケーションできるようになりたい。
- ・ 違う国の方々と話すのは人生で少ない機会だし、自分の視野が広がった。
- ・ 最初は不安しかなかった。伝わらず、聞き取れないことも多かったけど（ペアの生徒が）優しくしてくれて楽しかった。もっと勉強して英語が上手に話せるようになったらまた会いたい。
- ・ 日本の学生とは全く違い、やる気に満ち元気あふれる学生達との交流で、日本もこうあるべきだと思った。



生徒の多くがこの活動に対して肯定的な感想を持っていた。特に自身の英語能力不足を感じて、今後英語の勉強を頑張りたいという内容の感想も多く、残りの高校生活にも期待を持つことができる。全体を通して有意義な語学研修を行うことができたと感じた。

英語力及びプレゼンテーション力向上のための講習会では、これらの活動を「英語コミュニケーション能力開発プロジェクト」と名付け、年間をとおして取り組んだ結果、生徒にとって英語がより身近なものとなり、次年度以降の英語学習に繋がる貴重な体験となった。

#### 4 総合所見

- ・ より学究型の高校を目指して「進路実現に向けた環境整備と主体的な学習の推進」を掲げ、村高イヨボヤプランの実践をとして1年目の取組を行った。

今年度設定した主な目標値と結果は次のとおり

センター試験国公立型出願率 27%→28.6%、GTEC平均グレード3（4技能）→グレード3、部活動加入率 90%→81.2%、学校満足度 1, 2 学年 84%→78.2%、3 学年 90%→88%

- ・ 様々な課題への対応において、村高イヨボヤプラン委員会（以下イヨボヤ委員会）が機能したことにより、校内連携をよりスムーズにした取組を実践することができた。

また今年度はイヨボヤプランの全体像をパネルにし、広報活動に活用した。これにより、校内はもとより、中学校をはじめとする地域に対し、本校の目指すものがわかりやすく伝わったものと思われる。

次年度はこの委員会をさらに進化させ、スピード感をもって対応できるようなシステムの構築を図っていきたい。

- ・ カリキュラム・マネジメントについては、各教科の年間指導計画を一覧表にし、教科横断型の授業実践を推進するなど、学校全体で取り組むとともに、主体的、対話的で深い学びの実践を図るため、定期的に「授業研究週間」を設定し、お互いの授業を参観することで授業改善を図った。今後も引き続きこの活動に取り組んでいくとともに、少人数学級での習熟度別クラスや、主要3教科における展開数を増やした授業など、特進クラスの導入を含めた一層の検討を進め、イヨボヤ委員会がかじ取り役となり、実効性ある教育課程の編成を推進していきたい。

このほか、学習環境の整備にも取り組み、教務室前に質問を受けやすい環境を提供するなどして学習意欲の向上を図った。今後は進路指導室前の環境整備を進め、学校全体で進路実現への意識を高めたい。

- ・ 主体的な学習の推進については、特に2学年で取り組んだ「村高ゼミ」の成果は顕著で、市長とのふれあいトークでは時間が足りないほどの質問が出るなど、スタート当初の姿と比べてめざましい成長を遂げた。また、本事業と直接的なつながりではないが、地域探究の意識が高まったことにより、宵の竹灯籠まつりには100人を超えるボランティアが参加するなど、地域への貢献度も高まってきていることから、主体的に行動できる場面や機会の提供を今後も積極的に行っていきたい。

- ・ 海外修学旅行での現地高校生との交流会においても意識の面で大きな成果をあげることができた。また1学年では、当初、今年度から導入された小学校での英語授業を活用する予定であったが、小学校の事情により、交流することができなかった。今後は、小中高の連携を含め、地域とのつながりの中での英語力向上を目指していきたい。

英語4技能の向上をさらに効果的に進めていくため、次年度は新たに、英語力向上研修、英語指導先進高校への学校訪問、小、中学校と協力した英語力向上のための講習、授業体験に取り組んでいきたい。

## 県立阿賀野高等学校

**【テーマ】** 地域企業と連携したキャリア教育の推進

### **【目標】**

- 就職や進学への関心・意欲を高めるために、阿賀野市や地域の産業界、上級学校と連携しキャリア教育を推進する。
- 学習意欲の向上や進路意識の高揚を図るために、「学校設定科目」を新設するなど、新しい教育課程を編成する。
- 「人間関係形成能力」を育むための学習プログラムを実践し、その効果等について検証する。

### **【取組の概要】**

#### **(1)「人間関係形成能力」を育むための学習プログラムの実践**

大学と連携して、構成的グループエンカウンター（以下、S G E）、ソーシャルスキルトレーニング（以下、S S T）を実施し、効果を検証する。

#### **(2)キャリア教育の推進**

- ・地域の企業から講師を招聘して意識啓発講演会を開催
- ・地域の各種産業等についての講話や現場見学
- ・インターンシップ5日間を実施
- ・大学などの上級学校での講義の聴講等

#### **(3)教育課程の見直し**

平成32年度から実施する教育課程を編成する。また、生徒の実態、進路状況等を踏まえ、キャリア教育に係る「学校設定科目」の設置に向けて調査・研究を進める。

### **【取組の成果】**

インターンシップに90%の生徒が参加した。（昨年度87%）

インターンシップの生徒の満足度は76.9%、（昨年度78.9%）

インターンシップで学んだことで挨拶・言葉遣いの大切さ、時間を守ることの大切さ、人間関係の大切さをあげた生徒が39%となった。（昨年度34%）

S G EとS S Tについて80%の教員が内容を理解した。（今年度新規）

## 1 「人間関係形成能力」を育むための学習プログラムの実践について

### (1) SGE・SSTの実施（1学年）

目的 新潟大学教職員大学院と連携して、学習プログラムを開発し「人間関係形成能力」を育む。

・講師 新潟大学教職大学院 吉澤克彦 教授

・実施日・場所 本校体育館

7月25日(水)6限、8月29日(水)6限、9月26日(水)6限 SGEによる人間関係づくり

10月12日(金)3限、11月7日(水)6限、1月23日(水)6限 SSTによるスキル育成



## 2 キャリア教育の推進について

### (1) 第1回意識啓発講演会（2学年）

・目的 地域の企業等から講師を招聘し、職業・勤労に対する理解や認識を深める。

・実施日・場所・講師 7月26日(木)8:30~9:30 水原保健センター

阿賀野市が進めている事業について（阿賀野市商工観光課職員）

・生徒の感想

道の駅が建設されることを初めて知った。

阿賀野市がITによる完全管理の農業を目指していることがわかった。

工業団地のことをよく知らなかったので見学してみたい。

### (2) 地域理解のための企業見学（2学年）

・目的 地域を理解するために阿賀野市が進めている事業や地域産業についての現場見学実施。

・実施日・場所 7月26日(木) 9:30~15:00

うららの森園芸ハウス、道の駅建設予定地、(株)サカタ製作所、藤中工業(株)、(有)エムテック

・内容 阿賀野市が進めている事業に関連する施設の見学。



・生徒の感想

ビニールハウスの中には人が数人しかいないが、全て機械が農作物の管理をしているのに驚いた。  
東部工業団地の工場内が明るくてきれいだった。

道の駅建設予定地は、まだ何もできていなかったが、今後どのようなものができるか楽しみだ。

### (3) マナー指導（2学年）

・目的 企業から講師を招聘し、マナー指導等インターンシップの事前指導を行い、マナーの必要性や意義を、体験を通して理解し習得する。

・講師 渡邊康司 様（アドバンスパートナー株式会社）

・実施日・場所 7月13日(金)1限 各教室



・生徒の感想

お話を聞いてマナーについて、今まで知らなかったことがわかって良かった。

インターンシップでは、あいさつや身だしなみに気をつけて、有意義な体験にしたい。

マナーをしっかり守ることが大切だと思った。自分から積極的に行動をして、大きな声で挨拶をして、がんばりたいと思う。

インターンシップに限らず、マナーを守ることはとても大切なことだと思う。

社会に出るうえでのマナーを改めて教わることができた。

#### (4) 上級学校訪問（1学年）

- ・目的 地域の大学等上級学校へ訪問し、講義の聴講、施設設備の見学、先輩からの講話を通して進学情報の探索や試行的な体験を実施し、進学に向けて意識啓発を図る。
- ・実施日・場所 11月7日（水）8：30～14：40 敬和学園大学
- ・内容 大学紹介、キャンパスツアー、模擬授業、本校出身の大学生からの講話
- ・生徒の感想  
大学の施設の中は自分の知らないところがたくさんあったので勉強になった。  
得意なことに取り組んでいる先輩はすごいなと思った。  
先輩は夢や目標に向かって自分のことは自分で決めるところがとても尊敬できると思った。  
海外からの留学生がたくさんいたので、国際交流ができて良いと思った。  
模擬授業は難しかったが、丁寧に説明していただいたところは、理解できたと思う。



#### (5) インターンシップ成果報告会（1・2学年）

- ・目的 就業体験の振り返りや受け入れ企業からの講評を通して進路実現に向けて意義の高揚を図る。
- ・実施日・場所 12月5日（水）14：45～15：50 本校 体育館
- ・内容 インターンシップに参加した生徒4グループから成果報告（株式会社めんつう、有限会社臼井農畜産、阿賀野市役所、おとぎのくに保育園）

報告会参加者 1・2学年生徒全員、受入先企業の担当者、参観者

<受入先担当者>

株式会社めんつう 常務取締役 山家 利洋 様、有限会社臼井農畜産 臼井 直哉 様

阿賀野市役所 商工観光課 課長補佐 塚野 敏之 様

<参観者>

阿賀野経営者同友会 帆苺 信雄 様、馬場 重夫 様、坂詰 昭彦 様

阿賀野市役所 市長政策課 課長補佐 斎藤 和彦 様 阿賀野高校 P T A 会長 小田 正雄 様



・生徒の感想

私は旅館でインターンシップを行ったが、他の人たちがそれぞれの事業所で違う仕事内容を体験したことがわかった。

就職するときは、仕事内容について詳しく調べる大切さを感じた。1年生も来年頑張ってもらいたい。いろいろな事業所の方やインターンシップに参加した生徒の話は、共感できることや学ぶことがたくさんあった。今回の発表会は、自分の進路について勉強できる良い機会だと思った。

今回の発表会で、あらためて職業のことについて考える機会がもてて良かった。まだ、何になるかは決まっていないが、やりがいの感じられる職業につきたいと思う。

#### (6) 第2回意識啓発講演会（1・2学年）

- ・目的 地域の企業等から講師を招聘し、職業・勤労に対する理解や認識を深める。
- ・実施日・場所・講師 12月5日（水）14：45～15：50 本校 体育館  
株式会社めんつう 常務取締役 山家 利洋 様、有限会社臼井農畜産 臼井 直哉 様  
阿賀野市役所 商工観光課 課長補佐 塚野 敏之 様
- ・内容 インターンシップを実施して、若手社員からのアドバイス、阿賀野市の産業の振興について
- ・生徒の感想  
就職する前に働くという意味を考えると、働くにはその職場について詳しく調べておくことが大

事だというお話があり、とてもためになった。

先に目標があるとそこに行くまでの道が見えてきて、先に進むと過去と未来がはっきり見えてくるというお話は共感できた。

「下町ロケット」の話を取り入れて、とてもわかりやすいお話だった。

少子高齢化の影響で農業人口が減ってきているのは残念なことだと思った。農業という職業にも力を入れて欲しい。



#### (7) 第3回意識啓発講演会（2学年）

- ・目的 地域の企業等から講師を招聘し、職業・勤労に対する理解や認識を深める。
- ・実施日・場所・講師 1月16日(水)13:50~15:50 本校 体育館  
音楽家 多賀 茜 様 美容師 石井 健 様
- ・内容「仕事とは」仕事のやりがいや厳しさ、仕事に就くまでの経緯やきっかけについて講話。



#### ・生徒の感想

仕事は適当に決めてやるのではなく、自分がしたいことをポジティブにとらえて、やりたいことを捜していくことだと思った。いろいろなことに視野を広げていくことが大切だと思った。

就職にしても、進学にしても、人とのコミュニケーションの取り方を大切にして、自分のしたいことを仕事にできるようにしたい。

近道をせず自分の夢に向かって突き進むということを、今後の生活に活かしてゆきたいと思った。

### 3 教育課程の見直し

#### (1) 先進校視察（教職員）

- ・目的 キャリア教育の視点を取り入れた「学校設定科目」の新設に向けて、先進校視察を行う。
- ・実施日・場所  
10月15日（月）兵庫県立須磨友が丘高等学校、10月16日（火）神戸市立須磨翔風高等学校
- ・視察職員  
熊倉 愛 教諭（家庭科 特別支援教育コーディネーター 教育課程委員）  
町田 朋子 教諭（国語科 教務部 教育課程委員）
- ・概要

<兵庫県立須磨友が丘高等学校>

##### ①概要

昭和58年開校、平成14年総合学科に改編。現在各年次6クラス。多様な選択科目と2、3年次共習科目が特徴的。進路は7割以上が4年制大学へ進学。

##### ②授業見学（2年次「課題研究」）

##### ③協議懇談会（教務部長、進路部長、総合学科推進部長）

「総合学科のカリキュラム」

50分授業6コマ×5日、月曜日のみ7限（16:15終業）31単位。英数国は習熟度別授業。年間通してSHRを無くし、朝読書の時間（10分間）を設置している。選択科目は2年次8単位、3年次12単位。（選択科目の数は90以上。外部講師の科目も含む。）

「課題研究」

今年度入学生より2年生2単位、3年生1単位、合計3単位（「総合的な学習の時間」に読み

替え)。ゼミ形式で行い、約20の講座を開設。学校独自の課題研究ノートを作成し、ブックトーク、ポスターセッション、論文作成と中身の濃い年間計画が組まれている。

<神戸市立須磨翔風高等学校>

#### ① 概要

平成20年、神戸市立須磨高等学校と神戸市立神戸西高等学校の再編・統合により、神戸市立高等学校初の総合学科高校（単位制・定員320名）として開校。合併・改編後は兵庫県内でも中間くらいのレベルに向上した。生徒の学校満足度も高い。

#### ② キャリア教育について（キャリアセンター職員）

「キャリアプランニング」

1年生キャリアプランニングⅠ2単位（「産業社会と人間」に読み替え）、2年生キャリアプランニングⅡ1単位（「総合的な学習の時間」に読み替え）、3年生キャリアプランニングⅢ2単位（「総合的な学習の時間」に読み替え）。

「人間関係」

1年生1単位（「総合的な学習の時間」に読み替え）。「キャリアプランニングⅡ・Ⅲ」と合わせて3年間で総合的な学習の時間4単位を履修することになる。担当は主に1年生の担任が行う。立ち上げ当初は福祉の科目「コミュニケーション技術」等を応用し、福祉担当者が自身の研修と経験をもとに年間計画を策定した。その計画を毎年改良することで定着させてきた。1年生担任は、「人間関係」、「キャリアプランニングⅠ」、LHRの合計4時間を担当。

#### ③ 授業見学（3年生「教育問題の理解と発信」）

・阿賀野高等学校の今後の対応

①学校設定科目「キャリアデザイン」を新設するため、須磨翔風高等学校のキャリアセンター職員と連携し、「キャリアプランニング」を参考にした年間計画や評価方法等を作成する。

②新潟大学教職大学院と連携したSGE、SSTを定着させるため、須磨翔風高等学校の「人間関係」のカリキュラムを参考に、演習の年間計画や運営方法等を作成する。

③本校のインターンシップについて、須磨翔風高等学校の「キャリアプランニング」で実施している成果発表会や情報発信を導入する等の改善を行う。

④本校に導入される「総合選択制」のカリキュラムの充実を図るため、総合学科である須磨友が丘高等学校のカリキュラムを分析し、とくにコース別選択科目の選定等の参考にする。



## 4 取組の成果

(1) インターンシップに2学年の90%の生徒が参加した。77人/85人中（昨年度87% 62人/71人）この結果から、実施4年目で生徒のインターンシップへの参加意識が定着したと考えられる。

(2) インターンシップの生徒の満足度は76.9%、（昨年度78.9%）

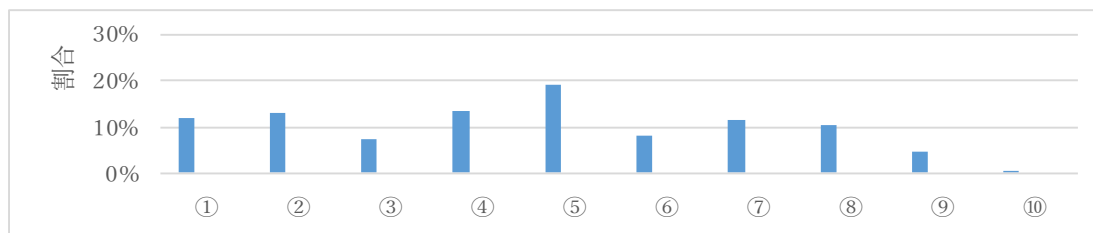
インターンシップを体験してどう感じましたか。<H30年度インターンシップアンケート>

楽しかった 76.9% 充実感を味わった 21.2% つまらなかった 1.9%

以上のように昨年度に比べ参加生徒の満足度が下がった。生徒が希望しない企業で、インターンシップを実施した場合、満足度が低い傾向がある。

(3) インターンシップで学んだことで挨拶・言葉遣いの大切さ、時間を守ることの大切さ、人間関係の大切さをあげた生徒が39%となった。（昨年度34%）

今回のインターンシップで学んだことは何ですか。(複数回答可)



①働くことの楽しさ ②働くことの厳しさ ③仕事に関する勉強の必要性 ④体力の必要性 ⑤挨拶・言葉遣いの大切さ

⑥時間を守ることの大切さ ⑦人間関係の重要性 ⑧学校と社会の違い ⑨社会における企業の役割 ⑩ ①～⑨以外

以上の結果は今年度のインターンシップ事前マナー指導を充実させたため、生徒の就業に対する意識が高まったと考えられる。

・生徒の感想

保育園でのインターンシップを体験して、子どもたちと遊ぶのはとても楽しいけれど、体力がないとついていけないと思った。先生方はみんな仲が良かったのが印象に残った。

社員の方はインターンの私たちにも、毎日、すれ違う時、挨拶をしてくれたり、挨拶を返してくれたり、大人になっても挨拶は大事だなと思った。

旅館のみなさんがとても優しく接してくれて、わからないところなどを教えてくれたので、スムーズに仕事ができ本当に良かった。

(4) SGEとSSTについて80%の教員が内容を理解した。(今年度新規)

- ・第1回特別支援教育研修会(5月16日)参加教諭 18名/21名 SGEとSSTについて  
講師 県立教育センター 山田史代 指導主事
- ・第2回特別支援教育研修会(8月24日)参加教諭 17名/21名 SGEとSST(LHR、総合学習で実践できるもの) 講師 水原中学校 通級指導担当 長谷川 亮 教諭
- ・SGE・SSTの実施 参加教諭 17名/21名 全6回  
講師 新潟大学教職大学院 吉澤克彦 教授
- ・ほとんどの職員は年度当初、生徒の人間関係づくりにおけるSGEとSSTの効果や重要性についての認識が薄かった。2回の研修と6回の演習を実施することによって徐々に参加者も増え、知識や経験を重ねるごとに内容の理解が進んだ。全職員の8割がこの研修に積極的に参加し、SGEやSSTの基本的な内容を理解したため行動の変容がみられたと考えられる。

5 成果と今後の取組

- ・過去3年間地域の企業や行政と連携しインターンシップを実施してきたが、今年度はさらに地域の企業から講師を招聘して意識啓発講演会を開催した。また、地域の各種産業等についての講話や現場見学をインターンシップ5日間実施前に行い、就業に対する動機づけを強化した。そのため、実施学年の2年生の9割が参加を希望した。さらにマナー指導の充実を図ることでインターンシップ実施後のアンケートの結果から挨拶・言葉遣いの大切さ、時間を守ることの大切さ、人間関係の重要性をあげる生徒が昨年度よりも増加し、生徒の変容がみられた。さらに1, 2年生対象に成果発表会を実施したことで2年生の就業に対する意識を高めるとともに、次年度インターンシップを実施する1年生の動機づけを強化することができたと考えられる。
- ・平成32年度から導入される「総合選択制」の教育課程について、教育課程委員会を中心に検討している。さらに、委員会の委員2名が「総合学科」や「キャリア教育」「人間関係」の学校設定科目を実施している県外先進校を視察し情報の収集を行った。現在、生徒の実態、進路状況等を踏まえ、キャリア教育に係る「学校設定科目」の設置に向けてシラバスの作成や申請の準備を進めている。

## 県立正徳館高等学校

**【テーマ】** 小規模の普通科高校における教育機会の創生による教育の充実  
～地（地域）・学（学校）・官（官庁）連携による教育の質の向上～

### 【目標】

- 1 学年 「よいた学」を中心とした体験的学習をとおして地域連携について学ぶ。
- 2 学年 キャリアガイダンスⅡの活動を通じプレゼンテーション能力や発信力を高めるとともに、インターンシップを通じて社会的視野を広げる。
- 3 学年 地域連携型行事の中心となり、主体的に活動を行う。

### 【取組の概要】

- ・ 新入生を対象に林間学校を実施し、コミュニケーション能力の向上を図った。
- ・ よいたコミュニティ5周年祭に芸術作品を展示した。
- ・ 新潟大学准教授を講師として、地域課題解決型のキャリア教育についての講演会を実施した。
- ・ 「よいた学」（1 学年）
  - （1）ボランティアガイド：与板の歴史について事前に学習し、観光客に対し実施した。
  - （2）ポスター作成：地元商店街の店舗のPRポスターを作成した。
  - （3）「届けよう服のチカラ」プロジェクトでボランティア活動を行った。
  - （4）保育・福祉実習：実習に取り組んだ。
- ・ 「長岡学」（2 学年）
  - （1）長岡市役所等から各分野の講師を派遣していただき、分野ごとの講演を実施した。
  - （2）インターンシップ：長岡市内の企業に依頼して2～4日間のインターンシップを実施した。
  - （3）修学旅行プレゼンテーション：修学旅行で、英語でのプレゼンテーションを実施した。

### 【取組の成果】

今年度の取組は、主に学校設定科目「キャリアガイダンスⅠ」「キャリアガイダンスⅡ」及び「総合的な学習の時間」を活用して取組を実施した。特に、「キャリアガイダンスⅠ」「キャリアガイダンスⅡ」では、さまざまな学校外の方と接する機会を多く設定し、発表の機会も多くしたことで生徒のコミュニケーション能力と思考力・判断力・表現力を養うことができた。

## 1 今年度の取組

- (1) 新入生を対象に林間学校を実施し、体験型のアクティビティを通して生徒間の交流を図り、入学直後の不安感の解消と、コミュニケーション能力の向上を図った。

実施日：平成30年4月11日（水）～ 13日（金）

主な内容：

- ① 「スマホ・ケータイ安全教室」（NTTドコモ）  
SNSやコミュニケーションアプリを扱う上での注意点と危険性をパワーポイントや再現ドラマを使って説明。
- ② アイスブレーキング（新潟県レクリエーション協会 中村正友 様）  
2人で手を繋いだ状態で立ち上がったたり、手を叩いた数でグループ分けをしたりなどの活動を通して、コミュニケーションを図った。入学して3日目ながら、全員で協力して取り組んでいた。
- ③ 妙高アドベンチャープログラム  
3班に別れ、班員で協力しながら活動。1人では出来ないことをコミュニケーションを取りながら一丸となって活動していた。

生徒アンケート：

- ① 「コミュニケーションを通じて不安を解消できた」  
5：77.8% 4：19.4% 3：0% 2：2.8% 1：0%
- ② 「高校生として望ましい生活習慣・学習態度を身につける事ができた」  
5：75% 4：22.2% 3：2.8% 2：0% 1：2.8%
- ③ 「本校生徒として求められるマナー及び人権感覚を身につける事ができた」  
5：80.6% 4：19.4% 3：0% 2：0% 1：0%

※5が「できた」、1が「できなかった」の五段階評価

生徒感想：

- ・たくさん不安もあったけど、コミュニケーション活動のおかげでなんとか過ごせました。
- ・はじめは緊張したけど、3日間の様々な体験を通して、今まで話したことがない人とも会話が楽しくできるようになって、すごくいい経験をさせてもらいました。
- ・クラスの人達と仲良く過ごすことができるかととても不安でしたが、クラスの人達の事を知ることができ、とても安心しました。

- (2) よいたコミュニティ5周年祭への参加

よいたコミュニティ協議会による7月1日（日）開催された「よいたコミュニティ5周年祭」の一つとして、地域のコミュニティセンターに「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」における芸術作品を展示して、地域の方に取組をPRした。



- (3) 地域の課題解決型のキャリア教育について、新潟大学創生学部准教授による講演を実施した。

実施日：平成30年4月24日（火）

主な内容：

- ① 田中一裕様（新潟大学創生学部准教授）の講演  
新潟大学創生学部1年生の「フィールドスタディーズ」の講義やテレビコマーシャル、ポスターの狙いを紹介し、地域の魅力発信及び課題発見・解決の方法を知る。

### ③ブレインストーミング

1・2学年に分かれて、長岡市勢要覧と与板地域の観光案内を読みながら、それぞれの地域の長所（魅力）、短所（課題）について意見を出し合い、地域の将来について考察させた。ファシリテーター役は田中一裕准教授と本校教員が行った。

生徒アンケート：「よいた学、長岡学を行う上でヒントとなりましたか？」

1年生 5：44.4% 4：41.7% 3：11.1% 2：2.8% 1：0%

2年生 5：21.2% 4：42.4% 3：33.3% 2：0% 1：0% 無答：3%

※5が「よく分かった」、1が「分からなかった」の5段階評価



講演の様子



ブレインストーミングの様子

生徒感想：

- ・CMは短いけど、見ている人の興味をひく感じでした。短い間に伝えたいことを区別することが大事だと思いました。
- ・どうすれば、県内、県外、外国の人たちに与板の素晴らしいところが伝わるかが分かった。これから学習していくよいた学について真剣に考えていきたい。
- ・与板には知らなかった良いところがたくさんあると知りました。また、せっかく商店街があるのだから、もう少し活性化につながる活動をすればいいと思いました。
- ・どのようにしたらみなさんに長岡の良さが伝わるかなど、いろいろ考えて長岡に貢献していきたいと思った。
- ・4時間目の講演はPRのヒントがたくさんあってとても勉強になった。また、5時間目では話し合いをとおして長岡のことについて考えるなど、これからの授業でも役立つ情報があって、とても良かったと思います。

### (4)「よいた学」(1学年)

ア) ボランティアガイド：与板の歴史について事前に学習し、よいた楽山苑ライトアップ時に観光客に対し、ボランティアガイドを実施した。

実施日：平成30年5月11日(金) 5月18日(金) 5月19日(土) 1日

主な内容：与板ボランティア協会様から実際に楽山苑をガイドしていただき参考とした。

地域の方々や観光に来てくださった方々に楽山苑を案内した。

生徒アンケート：

①「事前学習に真剣に取り組めましたか」

5：61.1% 4：25.0% 3：11.1% 2：0% 1：0%

※5が「真剣に取り組んだ」、1が「あまり真剣に取り組まなかった」の5段階評価

②「うまく発表することができましたか」

5：33.3% 4：47.2% 3：13.9% 2：2.8% 1：0%

※5が「できた」、1が「できなかった」の5段階評価

生徒感想：

- ・お客さんが頷いてくれたので内容がきちんと伝わったんだなと思いました。
- ・事前にきちんと学習しておけば、自分の担当する所の事をちゃんと話せたのではないかと思います。しかし、もうちょっと大きな声で話せば良かったとも思いました。
- ・実際にガイドをしてみて、人に説明する事の難しさを実感できました。
- ・人の前に立って喋る機会はあまり無かったので、声が小さかったのですが、この体験をとおして、しっかり人前ではきはきと大きな声で喋る事が出来、良かったです。

イ) ポスター作成：与板町商工会議所から紹介していただいた地元商店街の8つの店舗を取材し、それぞれの店舗をPRするポスターを作成し、高校生CMコンテストに出展した。

また、作成したポスターは、長岡商業高校3年生からテレビ会議システムを使って指導・助言を受ける機会を設けた。

生徒アンケート：「活動を通じて成長できたか」

5：33.3% 4：27.8% 3：27.8% 2：2.8% 1：0%

※5が「よく成長できた」、1が「成長できなかった」の5段階評価

生徒感想：

- ・ 広告を作る為にコンセプトを決めて、それに沿った写真を撮ったり、言葉を選んだりすることが大変でした。
- ・ この活動を通して、普段なら関わる事の無かった店主の方などと話すなど、地域の人と交流ができたことが良かったです。
- ・ ポスター制作において、聞いただけでは分からなかったことを一目でわかるようにするなどの工夫の仕方を知りました。
- ・ 今の職業に就くまでの流れなどを教えてもらい、進路への関心が高まりました。
- ・ どうしたら魅力のあるポスターができるか迷いながらやっていたけど、同じグループの中で案を出し合いながらきちんとできたので良かったです。
- ・ 一見簡単に見える仕事や作業でも手間や時間がかかっていると思うと、どんな仕事も大切だと思いました。
- ・ 発表の準備では、詳しく伝える為に様々な工夫をしました。

ウ) 「届けよう服のチカラ」プロジェクト：ユニクロ主催の古着を回収して難民の子どもたちへ届ける企画に参加し、生徒が地域住民や地元の保育園・幼稚園・小学校・中学校の児童・生徒に発表するなどして連携を呼びかけ、1,661着の古着を回収した。



幼稚園での呼びかけ



小学校での呼びかけ



梱包作業



回収した古着といっしょに

エ) 保育・福祉実習：県立教育センターのキャリア教育連携促進事業「学ぼう新潟の知恵」支援事業を活用し、与板保育園副園長による事前指導を実施した。また、新潟県介護福祉士会の「新潟県の介護の魅力発信事業」の出前講座を活用し、新潟県介護福祉士会会長による事前指導を実施した。

(5) 「長岡学」(2学年)

ア) 「長岡の農業」「長岡の林業」「長岡の水産業」「長岡の工業」「長岡市内の地場産業(与板の打ち刃物)」「長岡の交通」の6分野に分かれ、長岡市役所等から各分野に2

～3人の講師を派遣していただき、分野ごとの講演を実施した。さらに各テーマを深く調べ、正徳館フェスティバルで全校生徒・与板中学校全校生徒・地域の皆様に発表した。

また、「長岡の林業」グループが、内閣府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト 2018」に応募した。

イ) インターンシップ：長岡市内の企業に2～4日間のインターンシップを実施した。

ウ) 修学旅行プレゼンテーション：修学旅行で、「長岡学」で学んだ内容を基にした英語でのプレゼンテーションを実施するために、留学生ふれあい事業を活用して英文の作成指導及びプレゼンテーション指導を受けた。また、Google ハングアウトを介して県立教育センターのALTからも指導を受けた。

## 2 遠隔授業の実施

本校1年生が学校設定科目「キャリアガイダンスⅠ」の「よいた学」で「与板町商店街PRポスター」を作成した。平成30年11月15日(木)にテレビ会議システムを使った遠隔授業を行い、このポスターを長岡商業高校情報ビジネス科の3年生がこれまで学んできたマルチメディア実践での知識を元に評価し改善点をアドバイスした。

2校間の生徒の間には、良い意味での緊張があり真剣に学習に取り組んでいた。専門学科での学習の成果は大きく、本校生徒では気付かない間違いの指摘やアイデアを頂いた。これらを元に、ポスターを再構築し作り直した。

本校のみの学習では出来ない学びであり、遠隔授業活用の一つとして取り入れていくべき授業であった。



授業の様子 (長岡商業高校①)



授業の様子 (正徳館高校①)



授業の様子 (長岡商業高校②)



授業の様子 (正徳館高校②)



最初に作成したポスター



再構築し作り直したポスター

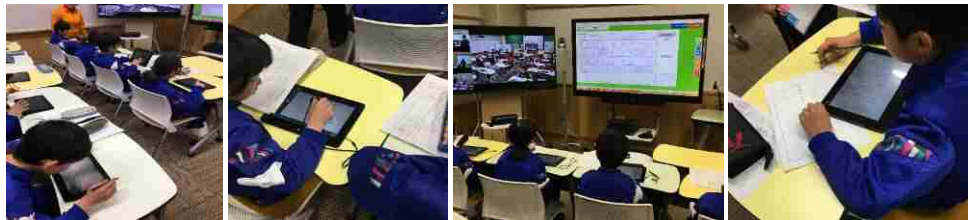
### 3 先進校視察

平成 31 年 2 月 15 日に長野県下伊那郡喬木村立喬木第二小学校を訪問した。同校（小規模校）では「多様性」「学力向上」「中一ギャップ解消」を目標として、①遠隔テレビ会議システム、②アクティブ・ラーニング教室整備、③児童用タブレットPC整備の3つの取組によって喬木第一小学校（適正規模校）との合同授業及び交流を図っている。タブレットPCとアプリケーションを活用することで、板書等の時間をかけずにデータの共有が可能となり、授業時間を有効に活用できる点が優れていると感じた。

また、授業後には両校のICT支援員同士で授業の振り返りを行っていた。



両校の児童による発表の様子



タブレット立ち上げ→タブレットに書き込み・送信→電子黒板に反映→全児童の情報がタブレットに

### 4 取組の成果

生徒が校外に出て、異年齢の方々との交流を行う取組が多く、このことが生徒に自信を与え、コミュニケーション力の向上に寄与した。

特に「よいた学」における与板町商店街PRポスター作成や「届けよう服のチカラ」プロジェクトにおいては、PDCAサイクルのプロセスを学ぶとともに成果を得ることを経験した。特にポスター作成ではテレビ会議システムを用いて2校間を結び、長岡商業高校の生徒からポスター制作のヒントを教えてもらう取組を行った。専門学科で学んだ生徒から教えてもらうことで、本校生徒では気付かない間違いの指摘やアイデアを頂くことで、ポスターを再構築し作り直すPDCAサイクルが実践できた。

### 5 総合所見

インターンシップ等の取組の成果として12月までに就職内定率100%を達成したが、「学校生活等に関する意識調査」における「高校生活」満足度は、63.6%と目標の70%を達成できなかった。次年度に向け各事業を見直し、改善に取り組んでいく。

生徒に多様な教育を受ける機会を提供すべく遠隔授業の研究を行っているが、生徒たちは違和感なく遠隔授業に取り組み、対面授業と同等の学習効果が得られている。教員間のサポート体制の構築や教育課程の充実を図ることで、小規模校における教育内容の充実が資することが可能と考える。

## 県立栃尾高等学校

**【テーマ】**                    **地域とともに進める学校づくり**  
**～地域に根付いたキャリア教育の実践と地域活性化プログラムの開発をめざして～**

**【目標】**

- 1 組織的・計画的なキャリア教育の継続した実践をとおして、総合学科の特性を發揮した教育に取り組む。
- 2 地域の大学や企業、福祉施設、幼保、小・中学校、行政、住民等との連携・交流を推進する。
- 3 新たな問題の解決や探求活動に主体的、創造的に、協働して取り組む態度や能力を養う。

**【取組の概要】**

これまでの本校教育活動に、地域の大学、住民、産業、行政とその相互交流事業を加えると共に、地域の自然、歴史及び文化等の再認識をすることで、郷土愛の醸成一層図る。

- 1 地域の人材を活用した取組や体験活動等を実施する。
- 2 世代間交流をとおした学校づくりのため、生徒と住民が集う地域コミュニティの場を維持・発展させる。

**【取組の成果】**

評価項目	実際の取組例	評価方法	評価
1 地域に対する愛着と誇りの醸成	(1) 地域探訪体験会、地域探訪学習会の実施	・ 生徒アンケート、感想	3
	(2) とちお手まり伝承者による製作講習会の実施	・ 「おかめかぼちゃコンクール」入賞者数、感想	2
2 地域に求められる学校へ	(3) 来て！見て！作って！体験フェスティバルの実施	・ 来場者および生徒感想、職員の感想	3
	(4) 栃尾地区中学3年生全員による高校授業見学会の実施	・ 生徒、保護者、職員の感想・アンケート結果	3
3 開かれた教育課程等の構築	(5) 長岡大学と連携した地域活性化プログラムの開発	・ 本年度実践と次年度実践計画の作成	2
		・ 各種セミナー、研修会への参加	2

「評価」      3：達成できた      2：概ね達成できた      1：達成できなかった  
 (内容については、別紙参照)

## 1 実際の取組例

### (1) 地域探訪 (1年生：おかめかぼちゃの絵柄付け体験)

#### ① 目的

地元の「おかめかぼちゃの会」の方を講師に迎え、栃尾地域の文化に触れるとともに地域への理解と関心を高める。

#### ② 取組の概要

(ア) 実施日時：平成30年10月4日(木) 13:30～15:30

(イ) 実施場所：栃尾文化センター大会議室

(ウ) 対象生徒：1年次生全員(85名)

(エ) 内容：栃尾おかめかぼちゃの会のご協力とご指導で、おかめかぼちゃの絵柄付けを行った。今年はおかめかぼちゃが不作であったため、プラスチック製のかぼちゃに紙粘土で細工を加えた物を使用し作成した。作品は「おかめかぼちゃコンクール」に出展した。

#### ③ 取組の成果 (「おかめかぼちゃコンクール」入賞者数、感想(抜粋))

- ・とちおおかめかぼちゃの会顧問賞(最高賞) 1人
- ・とちおおかめかぼちゃの会会長賞 1人
- ・キャラクター賞 1人
- ・とちおてまり賞 6人
- ・絵柄付けは初めて体験しました。かぼちゃの形によっては、その形をそのまま生かして作品にすることができました。普段なかなか体験することができないことが出来て、栃尾について学べたので良かったです。
- ・今回おかめかぼちゃの絵付けをして、改めて地域の方々の優しさを感じました。
- ・天候不順の影響でおかめかぼちゃが不作だったため、代用品をすべて無償で提供してくださったことを知ってとても驚きました。そして、地域の方々が栃尾の文化を栃高生に知ってもらいたいという気持ちが伝わってきました。今日はとても有意義な体験ができました。ありがとうございました。



【おかめカボチャについて】



【伝統的なおかめかぼちゃ】



【作成の様子】

### (2) 地域探訪 (2年次：上杉謙信入門「上杉謙信 旗揚げの地 栃尾」)

#### ① 目的

栃尾の様々な魅力を発信する方法について考える。

#### ② 取組の概要

(ア) 実施日時：平成30年10月11日(木) 13:30～15:20

(イ) 実施場所：栃尾高等学校

(ウ) 対象生徒：2年次生全員(91名)

(エ) 講師先生：長岡市小貫 瑞雲時住職 石田 哲彌 様

#### (エ) 内容

- ・あなたは上杉謙信について、こんな話を聞いたことがありますか？
- ・上杉謙信を語る資料
- ・栃尾の上杉謙信に関する事績。あなたはゆかりの地を訪ねたことがありますか？
- ・上杉謙信Q&A

- ・ 上杉謙信の手紙
  - ・ 上杉謙信の相關図
- ③ 取組の成果（生徒感想（抜粋））
- ・ 栃尾にかかわりの深い上杉謙信公の歴史、栃尾にもたらした影響など、様々なことを学ぶことができました。
  - ・ 上杉謙信が常安寺で教わった事と自分の目で見た戦争の光景、そして自分がこれからどうすべきかの葛藤の様子がよくわかりました。



### （３）地域探訪（３年次：栃尾の繊維産業の歴史と最新情報）

#### ① 目的

栃尾の繊維産業の歴史と最新情報について学ぶ。

#### ② 取組の概要

(ア) 実施日時：平成 30 年 10 月 11 日（木） 13：30～14：20

(イ) 実施場所：栃尾高等学校

(ウ) 対象生徒：3 年次生全員（96 名）

(ウ) 講師先生：港屋株式会社 専務取締役 星野貴宏 様

#### (エ) 内容

- ・ 自己紹介 港屋株式会社についての説明
- ・ 栃尾織物の歴史
- ・ 織物の工程及び港屋（株）の仕事内容
- ・ 衣料品ができるまで
- ・ 日本の織物産業の最新情報

#### ③ 取組の成果（生徒感想（抜粋））

- ・ 織物のことだけではなく、栃尾という地域も学ぶことができました。私は栃尾といえば油あげという印象を強く持っていましたが、「織物」という産業が古くから栃尾にあり全国的に有名だった、ということを知りました。江戸時代から伝統を守っている人を見て途絶えないでほしいと感じました。織物は私が想像していたよりもたくさんの作業や種類があり、中でも港屋株式会社さんでしかやっていないような染め方もあったりして、こだわりを感じました。
- ・ 栃尾に住んでいることもあって以前学習したことがあり、栃尾の歴史を再確認することができました。どういう経緯で栃尾の織物が全国に広まって有名になったのか、昔の生活はどんなだったのかなど今まで知ることができなかったことを学ぶことができました。戦後の伝統的な織物を今の時代まで大切に受け継いできた歴史に感動しました。日本製のものは値段が少し高いけれど、質のよいものばかりで、今回の話を聞いて国産の織物を身に付けて、若い世代に日本の織物の歴史や伝統を受け継いだ織物の偉大さをもっと知ってほしいと思います。

### （４）栃尾てまり講習会

#### ① 目的

「栃尾てまり」製作を基礎から体験し、地域の伝統工芸に触れるとともに、「栃尾てまり」の魅力や栃尾地域に暮らしてきた先人の願いや思いを知り、理解を深める。

#### ② 取組の概要

(ア) 実施日時：平成30年8月29日（水）、9月5日（水）、12日（水）、10月17日（水）  
計4回（8時間）

(イ) 実施場所：栃尾高等学校

(ウ) 対象生徒：ファッション造形基礎②選択生徒 7名（3年次生）

(エ) 講師先生：てまりの会会員

(エ) 内 容

第1回 手まりの土台作りを行った。芯に数珠玉を入れて音がなるような工夫を施し、糸を巻き付けて所定の大きさに仕上げた。

第2回 写真見本から、作りたい柄と色糸を選び、製作を開始した。今回は、時間の関係で手まり図案は、桜の柄と菊の柄の2種類のみとした。

第3回 手まり上に刺していく位置を確認しながら、色糸で形と模様を作っていく。

第4回 仕上げの飾り紐をつくり、手まりに取り付ける。



てまり作品展（道の駅 R290）

### ③ 取組の成果（生徒感想（抜粋））

- ・はじめは出来上がるかどうか不安だったが完成が近づくと嬉しくなり、最後まで忘れるくらい集中して取り組むことができた。
- ・講師の方々が親切に教えてくれた。教えてもらった通りに針を刺していったら、菊の模様が出来上がり、嬉しくなった。
- ・色合わせが難しかったが、作っているうちに集中して取り組んでいた。

## (5) 来て！見て！作って！体験フェスティバル 2018

### ① 目的

栃尾高校の生徒による地域活性化

### ② 取組の概要

(ア) 実施日時：平成30年8月10日（金） 13：00～16：00

(イ) 実施場所：ショッピングモールTOPPY 特設会場

(ウ) 内 容：書道パフォーマンス・オリジナルキーホルダー・体力測定  
空気砲で景品ゲット・ゴムでっぼうで景品ゲット・お買い物ゲーム  
くるみボタン・おりがみ教室・レジン押し花アクセサリ・押し花しおり  
栃高クイズ・キャンディポット作り・ミニハーバリウム作り  
サプライズブース（長岡造形大学の皆さんとのコラボ）



書道パフォーマンス



くるみボタン作り



けしごむストラップ  
（長岡造形大学生共同）

### ③ 取組の成果（来場者数、職員所見）

来場者 H29年 130名、H30年 300名

今年度は会場を栃尾文化センターの外壁工事の都合により、栃尾ショッピングモールTOPPY特設会場に変更を余儀なくされた。新会場は栃尾市街地から離れているため、来場者数の減が想定されたため、各児童クラブ等への来場依頼とともに、長岡市に送迎車の手配も依頼した。このことに加え、例年実施日を「とうきび観音まつり」の主会場に近いことから合わせていたが、栃尾ショッピングモールへの祭りの買物ついでに気軽に訪れる人が想定以上に多く、300名を越えたと思われる程の賑わいとなった。当日はとても暑かったため、来場者の方々の安全を配慮した上でお待ちさせることなく運営することは、とても困難であったと感じた。しかしながら参加した生徒は休憩もとらずに、いろいろな場面で積極的に、笑顔で来場者の方々の対応をしていた。また、後片付けをする際も弱音をはくどころか、率先して自分たちができることを行う様子が見られ、生徒のさらなる成長を垣間見ることができた。

## （6）長岡大学と連携した地域活性化プログラムの開発

### ① 目的

長岡大学と連携して、地域貢献を柱とした指導法や学習方法の点検を行うことにより、地域人材や地域資源を活用した地域活性化プログラム（学校設定科目等）を開発し、開かれた教育課程の構築を図るとともに、魅力ある学校設定科目等を設けることで在校生のやる気を引き出し、高校の活性化につなげることで中学生が入りたい・保護者が薦めたい高校にする。

### ② 取組の概要

#### （ア）連携先

長岡大学 経済経営学部教授 石川秀樹 様  
石川秀樹ゼミナールⅢ 13名（4人の中国人留学生を含む）

#### （イ）各種セミナー・研修会

- ・2018長岡大学地域連携研究センターシンポジウム「地域の人出不足と雇用のイノベーション」の聴講（平成30年11月21日（水））
- ・平成30年度 学生による地域活性化プログラム成果発表会に出席（平成30年12月1日（土））
- ・第6回 全国高等学校観高サミット（会場 金沢星稜大学（石川県金沢市））に参加（平成30年12月14日（金）・15日（土））
- ・ルーブリックに関する高大連携による勉強会に参加予定（平成30年3月20日（水））

### ③ 取組の成果

- ・2018長岡大学地域連携研究センターシンポジウムについて  
連携する長岡大学石川英樹教授による研究発表で、長岡地域の雇用市場についての報告であった。内容は、地区のほとんどの企業が人手不足となっているというもので、各企業では人員を確保する取り組みとして、労働時間の短縮や社員の子育て・介護等の配慮、高齢者や女性の積極活用、新卒者採用での学校との連携などが効果をあげているということを知ることができた。このことから、次年度は、若年層が地元に残るための地元の魅力は何なのか。また、それをどう発信するのかなどを実践していくこととする。
- ・平成30年度 学生による地域活性化プログラム成果発表会について  
長岡大学では、製造業やサービス業での商品開発などをとおして、長岡地域への地域活性化の貢献や地域との交流を通じての社会人基礎力を身につけることを目的としていた。このことから次年度本校では、栃尾地域の魅力を再発見し、それを活性化に繋げるため商品開発・販売実習グループでの実践をしていくこととする。
- ・第6回 全国高等学校観光サミットについて  
観光に取り組んでいる高校が全国から集うサミットで、各校の生徒が企画・運営するツアーや、旅行業務取扱管理者試験への取り組み等の実践発表に加え、高校生ガイ

ドによる観光案内体験会があった。次年度本校では、地域活性化と絡めた栃尾地域の観光促進に向けた観光グループでの実践をしていくこととする。

- ・ループリックに関する高大連携による勉強会について

帝京大学井上史子教授による「学修成果の可視化を目指して～ループリックの活用と実際～」の講演と、ループリックの作成を行い、評価の観点や尺度を検討した。ループリックは、課題解決に向けた評価設定をすることで学力だけでなく、さまざまな観点から評価できることがわかり、「栃尾地域活性学（仮）」に積極的に取り入れていくこととする。

## 2 総合所見

地域の企業、福祉施設、幼保、小・中学校、行政および住民等とは、個人的な絆から組織的な絆へと深化できたことで、連携行事が特別なイベント事から定例行事化してくるなど、栃尾高校への理解が一層深まってきた。

また、本年度からスタートした高大連携は、長岡大学との連携を実現させ、加えて次年度の計画立案・すり合わせが整ったことで、来年度から具体的な実践活動に移る。

### 【来年度からの取組内容】

長岡大学生と栃尾高校生徒の混成グループを以下のように編成し、栃尾地域の活性化を目指し、調査研究をすすめることで、新たな魅力や資源を発見し、そのことについて商品開発や観光に関する企画・運営を計画していく。本校と長岡大学との連携による学校設定科目として「栃尾地域活性学（仮）」の開設を目指し実践する。

（商品開発・販売実習グループ）

「農業まつり（9月）」、「街道まつり（10月）」、「悠久祭（10月26・27日）」

「橡峰祭（10月19日）」での販売に向けて商品開発等を実施。

（アドバイザーとして、飲食関係の企業等へ協力依頼）

（観光グループ）

・秋の日帰りツアーの企画・運営。

・地域マップの制作

・PRビデオ等の制作

（アドバイザーとして、栃尾支所やツアー会社等へ協力依頼）

## 県立吉田高等学校

### 【テーマ】 地域で貢献できる人材の育成

#### 【目標】

- 1 地域に根ざした体験や学びを通して自尊感情を高め、能動的に学び続ける力を育成する。
- 2 人と協働する中で自分の役割を見つけ、自ら考えて行動することができる力を育成する。
- 3 吉田高校の教育活動を活性化させ、その内容を地域に情報発信する。

#### 【取組の概要】

○燕市教育委員会、燕商工会議所、吉田商工会、燕市観光協会、社会福祉協議会等との連携により事業を行った。主な取組は以下のとおり。

- ・ 燕市長による特別講座（全校生徒対象）
- ・ インターンシップ（2年生希望者対象）、地域進路探究講演会（1年生対象）
- ・ 地元企業経営者による模擬面接（3年就職希望者）
- ・ グローバル教育体験講座（文系・理系コース3年生）
- ・ JICAの講師による特別講義（文系・理系コース2年生）
- ・ 地場産業学習会（情報ビジネスコース2年生）
- ・ 地元アスリートによる地域スポーツ講話（健康体育コース2年生）
- ・ 赤ちゃん交流会、高齢者擬似体験、地域の食と文化を学ぶ講座（文化教養コース2・3年生）
- ・ 先進校への視察（静岡県富士市立高校、富山県立泊高校、新潟県立小千谷西高校 石川県立金沢商業高校）

#### 【取組の成果】

- 1 地域と連携した内容を授業に取り入れて効果を検証した。また、今年度は「吉田高校サポート協議会」が立ち上がり模擬面接や巣立ち教室を実施した。地元での就職率は90%であり、地域を担うという意識が一層強まった。
- 2 本事業の生徒の評価は高く、進路意識を高める点で非常に有効である。
- 3 平成31年度入学生の2・3年生には、総合選択科目の中に、地域と連携した学校設定科目を設置することから、次年度は、本事業を活用した事前指導、事後指導を含めた効果的な授業づくりについて研究を進めていくこととしたい。

## 1 主な取組について

アンケート結果の評価は、「4：とてもよい 3：まあまあよい 2：あまりよくない 1：全くよくない」である。

### (1) 燕市長による出前講座 【全校生徒対象】

期 日 平成30年6月21日（木）

目 的 「燕市まちづくり出前講座」を活用し、地域の課題とこれからの生きる若者に必要な力について学ぶ。

内 容 鈴木力 燕市長を講師に「10年後社会で活躍できる”自分”になるために」と題し、社会環境の変化などを踏まえ、未来を切り拓く方法を伺った。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	31%	40%	20%	9%
講座の内容は満足できるものでしたか	43%	46%	6%	6%
講話の内容はおもしろかったですか	40%	43%	9%	9%
地域について興味・関心は高まりましたか	37%	37%	14%	11%
地域と関わる進路や将来を考えるうえで役に立つものでしたか	46%	43%	3%	9%

生徒の感想

「進路について考えることの大切さを知ることができた。10年後、20年後の自分を見据えてがんばりたい。」

「これからの社会は今とは違う。将来を生き抜くために 柔軟な発想と体験から得る感性が必要だと知った。」

「情報編集力とその要素という言葉が印象に残った。」



### (2) インターンシップ 【2年生希望者対象：19人】

期 日 平成30年7月24日（火）～8月24日（金）のうちの3日間

目 的 地元企業等からの協力を受け、勤労観、職業観を養うとともに、生徒自身が自己の進路について考え、地元企業を知る機会とする。

内 容 夏休み期間を利用し、製造・販売・接客・保育・介護・美容・会計事務のうち、自ら希望する業種について3日間のインターンシップを経験した。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
インターンシップについて話を聞いたとき興味を持ちましたか	57%	43%	0%	0%
自分から積極的にインターンシップに参加できましたか	86%	14%	0%	0%
インターンシップは楽しかったですか	86%	7%	7%	0%
地元企業について興味・関心は高まりましたか	71%	29%	0%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	100%	0%	0%	0%



### 生徒の感想

「自分の仕事に誇りをもって働いている姿を見て刺激を受けた。」「最初は何をしたらいいのか戸惑っていたが、周りの方から教わりながら充実した3日間になった。」

「組み立ての仕事は、たいへんだったが、作業をしていくうちにやりがいを感じた。」

「接客での礼儀などを学ぶことができ、人として成長することができた。」

「高齢者とコミュニケーションをとることが難しかったが、相手の目を見て、笑顔で伝えることが大切であることを学んだ。」「自分の進路実現に向けて頑張ろうと思う。」

### (3) グローバル教育体験講座 【文系・理系コース3年生対象】

期 日 平成30年12月18日（火）

目 的 グローバル時代を見据え、国際化に対応できるきっかけとなるよう英語以外のアジアの言語に触れ、世界に向けて視野を広げる。

内 容 韓国語、インドネシア語の2言語の講座を開講した。各国出身の2人の講師から、国の生活習慣や文化の講話と簡単な挨拶を学んだ。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この講座について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	54%	29%	14%	3%
自分から積極的に体験講座に参加できましたか	71%	26%	3%	0%
体験講座は楽しかったですか	83%	14%	3%	0%
異なる国の生活や文化について興味・関心は高まりましたか	77%	17%	6%	0%
外国とかかわる進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	60%	23%	9%	8%

### 生徒の感想

「韓国は日本から近いので行ってみたいと思った。」「インドネシアの島に興味をもった。」「講師の方の日本語が上手で驚いた。」

「言語だけでなく、その国の文化にも触れることができてよかった。」

「講座の時間が短かった。もっと多くのことを学びたい。」

「来年もこの講座を受講したい。」



### (4) 地場産業学習会 【情報ビジネスコース2年生対象】

期 日 平成31年2月1日（金）

目 的 県央地域(燕市)の地場産業の現状および今後の展望について、企業関係者から説明を受け、地場産業に対する理解を深め、地域社会との関わりを学ぶとともに進路決定の一助とする。

内 容 つばめ産学協創スクエアを訪問し、地元企業9社から説明を受けた。参加企業は次のとおりである。

遠藤商事、新潟ダイヤモンド電子、森井紙器工業、高秋化学、明道メタル  
長谷川挽物製作所、新越ワークス、江部松商事、テックエンジニアリング

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	81%	19%	0%	0%
あたなの進路はなんですか	就職80%	進学15%	その他5%	
あなたは将来どこで働きたいと思っていますか。	燕65%	燕市外県内19%	他15%	
今回の学習で将来働きたい場所が変わりましたか	50%	15%	4%	31%



生徒の感想

「地元企業に就職する上で、企業の特徴や内容の説明がわかりやすく参考になった。」

「会社の若手社員の方がやりがいをPRしている様子を見て、魅力を感じた。」

(5) 地域スポーツ講話 【健康体育コース2年生対象】

期 日 平成31年2月4日(月)

目 的 地元在住の水球のアスリートから、競技や海外生活での経験をとおして得た生き方や考え方を学ぶ。

内 容 ブルボンウォーターポロクラブ柏崎の青柳 勸さんに水球の第一人者としての経験と夢をかなえるための方法について伺った。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この講話について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	71%	29%	0%	0%
講話は満足できるものでしたか	82%	18%	0%	0%
スポーツについて興味関心は高まりましたか	59%	29%	6%	6%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	88%	12%	0%	0%

生徒の感想

「どんな話でも、無駄はない。そこに重要な情報があると分かった。」「スポーツ選手をめざして頑張りたい。」

「夢をかなえるためにしっかり頑張りたい。」

「青柳先生のアドバイスはとても参考になった。」

「将来の目標をもって生きるために役立つ話だった。」



(6) 赤ちゃん交流会 【文化教養コース2年生対象】

期 日 平成30年9月11日(火)

目 的 乳幼児とのふれあいにより、子どもの発達について理解するとともに、親の視点で子どもを考え、親の役割や適切な保育について学ぶ。

内 容 地域の保育施設職員の協力の下、乳幼児と母親18組に来校していただき、乳幼児に実際に触れながら、母親から育児の体験談を伺った。生徒は、準備した手遊び歌や手作りプレゼントを披露して交流した。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	54%	31%	15%	0%
自分に与えられた仕事への取組は満足できるものでしたか	70%	15%	15%	0%
活動は楽しかったですか	92%	0%	9%	0%
子育てについて興味・関心は高まりましたか	70%	30%	0%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	70%	15%	15%	0%

生徒の感想

「赤ちゃんに初めて触れて、抱き方を教えていただき、楽しく交流できた。」「赤ちゃんを抱っこしたら、緊張がほぐれ赤ちゃんの力はすごいと思った。」「おむつ替えを素早くこなすお母さんの様子にさすがだと思った。」「4人子どもを産んだお母さんからは、大変だったけれど楽しいという話を聞いて、元気づけられた。」「赤ちゃんを抱っこしたときに泣かずに笑ってくれたことが印象に残っている。」



**(7) 地域の食と文化を学ぶ講座 【文化教養コース2年生対象】**

期 日 平成30年12月6日（木）

目 的 地域で昔から受け継がれてきた食文化に触れ、食と地域とのつながりについて学ぶ

内 容 農村地域生活アドバイザー岩野幸子様を講師に、「おこわだんご」の実習をとおして文化と作り方を学習した。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	64%	18%	18%	0%
この講座の内容は満足できるものでしたか	64%	36%	0%	0%
この講座は参考になりましたか	82%	18%	0%	0%
地域の食と文化について興味・関心は高まりましたか	73%	27%	0%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	64%	27%	9%	0%

生徒の感想

「おこわと団子が合うのか不思議だと思ったが、意外と合っていていい味だった。」「田植えの頃作ることなど地域の食文化を聞いて勉強になった。大事にしたい郷土料理だと思う。」

「団子を丸めるのが少し難しかったが、家でも作りたい。」



**(8) 高齢者疑似体験 【文化教養コース3年生対象】**

期 日 平成30年12月14日（金）

目 的 高齢者疑似体験をとおして、高齢者の心身を理解するとともに、適切な支援について学ぶ。

内 容 社会福祉協議会の協力により、高齢者疑似体験セットを借用し、右半身のマヒ、視野が狭くなる状態を想定して、歩行や財布から小銭を取り出す動作を体験し話し合った。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この講座について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	38%	62%	0%	0%
自分から積極的に参加しましたか	54%	46%	0%	0%
体験は楽しかったですか	58%	42%	0%	0%
高齢者について興味・関心は高まりましたか	42%	46%	4%	8%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	54%	42%	4%	0%

## 生徒の感想

「目や身体が弱くなると、何もできなくなるのだなと思った」「考えていた以上に見えない、動けないことがわかった。」「動けない辛さがわかり、貴重な体験になった。困っている人がいたら助けてあげたい。」



## (9) 先進校視察 【校長、教頭及び担当教員 計8名】

目的 学校設定科目「地域ビジネス実習」及び「観光ビジネス」の研究として、先進校を視察し、地域と連携した取組や授業の進め方を学ぶ。

- ① 視察先 静岡県富士市立高等学校 平成30年5月24日（木） 1名（校長）  
内容 学校づくりにあたっては、まず「育てたい生徒像」を校内で共有し、それを実現するために、教育課程やコースを設定するという考え方をとっている。
- ② 視察先 富山県立泊高等学校 平成30年11月20日（火） 2名（教頭、商業科教諭）  
内容 普通科における「観光ビジネス」2単位は、地域の観光資源を題材に学び、体験を通じて地域の魅力を理解するとともに、情報を発信する力を養うことを目標としている。
- ③ 視察先 新潟県立小千谷西高等学校 平成30年11月29日（木）  
3名（校長、H31年度1年担当予定者、商業科教諭）  
内容 デュアルシステムは、普通科でも導入が可能で、この取組を通じて新たな就職先の開拓にもつながるとしている。地域の関係機関と連携して事業所の選定等を進める必要がある。年間の流れとしては、4、5月は事前指導の期間、6～11月が事業所での実習期間、12月以降がまとめ・発表の期間としている。
- ④ 視察先 石川県立金沢商業高等学校 平成30年12月4日（火）  
2名（教頭、商業科教諭）  
内容 観光の学習は、地域の自然や文化などの魅力を掘り起こし、生徒が活動することで、地域への活力や観光誘致にもつながるとしている。観光分野の学習をとおして話し方、伝え方、英語、情報収集、情報発信などの力を養うことを目標としている。

## 2 総合所見

全事業の生徒のアンケート評価の平均値は、「3.5」（昨年3.6）で、目標である3.4を達成できた。平成30年度卒業生の就職先は、三条・燕地区に就職内定者の約90%を占めており、これらの取組は、地域を担う生徒の進路意識を高める上で非常に有効である。

平成31年度入学生の2・3年生には、総合選択科目として地域と連携した学校設定科目を設置することから、次年度以降は、本事業を活用した効果的な授業づくりについて研究する。

## 県立塩沢商工高等学校

### 【テーマ】 地域と連携した教育課程編成の研究

#### 【目標】

地域のニーズを見据えた特色ある教育活動（教育課程）により、地域企業が求める人材育成を推進し、地域に根ざした人材の育成を図る。このため、地域と連携した教育課程編成の研究に取り組む。

#### 【取組の概要】

- ・ 生徒の土木に関する仕事への理解を深めるための効果的な導入方法の研究
- ・ 克雪・利雪の事例等による地域理解を深めるための研究
- ・ 地中熱を利用した技術を指導するための研究活動
- ・ コミュニケーション能力の向上を図る指導方法の研究
- ・ 生徒に地域の課題と解決策を考察させるための効果的な指導方法の研究
- ・ 地域と連携した教育活動充実のための研究
- ・ インターンシップの実施（2年生全員）

#### 【取組の成果】

- ・ 機械システム科1年生全員に土木現場見学を実施し、土木企業の作業内容やその重要性について生徒は理解を深めることができ、土木に関する関心を高めることができた。
- ・ 商業科生徒は地域行事へ参加し、商品販売活動や地域貢献活動を行い、地域の魅力や観光資源等を再認識することができた。
- ・ インターンシップは2年生全員が3日間取り組んだ。就業体験を実施することで勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験し、各企業における本校への期待を感じることができた。
- ・ 克雪・利雪の事例等による講演会により生徒は地域理解を深め、地中熱を活用した融雪研究へ意欲・関心を高めることができた。

## 1 生徒の土木に関する仕事への理解を深めるための効果的な導入方法の研究について

平成 30 年 10 月及び平成 31 年 1 月、土木作業現場や作業に使用する建設機械を実際に見学・体感することで土木の重要性について理解を深めるとともに、土木系科目を選択するための動機付けとし、土木に関する有為な人材を地元へ輩出するための一助とすることを目的として、土木見学を行った。

### 【生徒の主な感想】

- ・ 橋梁の橋脚の建設作業を見て、思っていた以上の大変さを感じましたが、それ以上のやりがいがありそうだと思います。私はこの現場見学会を通して、建設業への興味がより向上しました。
- ・ 私が現場見学会を通して学んだことは、街を作るすごさです。市民の方々や街の安全のために橋、トンネル、道路などを施工することや、現場の方々の頑張りや、努力を現場見学会で知ることができました。

### 【成果と課題】

生徒は実際の土木作業現場を見学・体感できたことで、土木に関する仕事の重要性を理解し、関心を高めることができた。しかし、次年度の土木科目選択者数が募集の上限まで達しなかった。原因を考察し、土木科目選択者増加のため、指導方法の研究・改善が必要である。

## 2 地中熱を利用した技術を指導するための研究活動

機械システム科では、地中熱を利用した技術等に関する探究活動を行い、2年後には実際に地中熱を活用した融雪設備を施工する予定である。その動機付けと地中熱活用技術に関する知識を生徒に身に付けさせるため、平成 30 年 12 月、(株)興和の桑原様と花岡様から、講義をしていただいた。

### 【生徒の主な感想】

- ・ 構造物を作る以外にも建設業の仕事が多く存在していることを知りました。自分たちが毎年冬に使用している消雪パイプの仕組みや、消雪パイプを使うことによる地盤沈下の問題があることを知り驚きました。そこで、地中熱を利用した新しいシステムを使い融雪を行うことで、地盤沈下の問題の解決につながるということがわかりました。また、家の中の暖房にもこのシステムが活用でき、地球温暖化の問題にも関わっていくのだと知りました。
- ・ 日々見えないところで、安全で快適な生活作りや地球環境の問題に取り組んでくれている人たちがいることを改めて感じる事が出来ました。私も社会に貢献できるような技術者を目指したいと思いました。
- ・ ヒートポンプを使った融雪設備について、すでに採用されている場所や、効果が出ている場面の写真を見せていただき、詳しく説明を受けたので、とてもよくわかりました。南魚沼もこの設備を使え



国道 289 号線工事 (三条市)



瑞祥橋架替工事 (見附市)



ば、多少の積雪でも交通機関を妨げることなく普段通りの生活が送れるのではないかと所思いました。

#### 【成果と課題】

生徒に地中熱を活用した克雪技術に関する興味・関心をもたせることができた。また、地中熱活用に関する基礎的な知識等を得ることができた。次年度は実際に作業を行い、地面の掘削とヒートパイプ施工による指導方法の研究に取り組む。

### 3 コミュニケーション能力の向上を図る指導方法の研究

平成30年10月、愛・南魚沼みらい塾代表の小林様より、ビジネスマナーとコミュニケーションの大切さについて、実体験を踏まえた講義をしていただいた。接客の知識を知っていても、実践できなければ意味がなく、誰に対しても同じような接客・接遇サービスができないといけないという話をしていただいた。また、挨拶（自己紹介）をするときの動作・表情・手順・言葉・声の大きさなど細かくアドバイスをいただきながら実技指導をしていただいた。一人一人がきちんとすることで全体の印象が決まるということも生徒は学んだ。

#### 【生徒の感想】

- ・ コミュニケーションが大切と学んだので、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとろうと思いました。また、挨拶の意味も教えていただき、とても参考になりました。実技で、姿勢を指摘されたのでしっかりと直したいと思います。
- ・ 挨拶の意味を知り、今まで返しているだけだった挨拶も、これからは意味を考えてしようと思いました。実習では、授業で習ったつもりでいましたが、実際にやってみるととても難しく、普段から心掛けて習慣にしていけることが大事なんだと思いました。
- ・ 講師の先生の聞き取りやすい、ハキハキした話し方に心を打たれました。そして、あの笑顔で話す姿にスゴイと思いました。面接等の時に相手に良い印象を与えられるようにビジネスマナーをより深く考えてみようと思いました。
- ・ 一番驚いたことは、マナー＝思いやりということです。今まではかたくるしいと思っていたけど、マナーは人への思いやりなんだって思ったら、きちんと勉強しないといけないと思いました。次に挨拶をするときは、今まで以上に気持ちを込めながら相手を見てしてみようと思いました。

#### 【成果と課題】

1年生でビジネスマナーとコミュニケーション能力の向上を図ることができ、今後の商品販売活動のため基礎をつくることができた。次年度への課題として、外部講師による講義に加え、教職員による指導も継続して行い、ビジネスマナーの定着とコミュニケーション能力向上のための指導方法の研究に取り組む。



#### 4 生徒に地域の課題と解決策を考察させるための効果的な指導方法の研究

平成 31 年 1 月、南魚沼市情報誌「美女旅」・「L I F E in」を企画・運営している h design project 代表の吉田様、南魚沼市 U & I ときめき課の滝澤様から、情報発信の手法や効果的な P R 活動について講義をうけ、生徒は、南魚沼地域における情報発信の実際や地元の魅力について理解を一層深めることができた。また、「常に考え、疑問を持つ」「意見・活動を否定するなら代替案をだす」「努力の本質は試行錯誤である」「努力とは体でなく頭をつかうものである」「人間は自分が思ったことを正しいことだと認識する」「自分の好き嫌いを判断基準にしてはいけない」など、情報発信以外にも大切な話を聞くことができた。

##### 【生徒の主な感想】

- ・ 南魚沼市に住んでいても知らないことや場所があった。Uターン、Iターンする人が増えて、もっと南魚沼が発展してほしいと思った。
- ・ 進学して地元に戻ってくる気持ちはなかったけど、ちょっと帰ってきてもいいなと思った。
- ・ 南魚沼市に住み続けたいと思った。自分でも県外の人達に魅力を伝えられるようになりたいと思う。

##### 【成果と課題】

生徒は、課題解決のための手法を学ぶとともに、南魚沼地域における情報発信の実際や地元の魅力について理解を一層深めることができた。次年度への課題として、講義で学んだ課題解決方法を実際に活用する場面を設定し、対話的で深い学びを生徒に取り組みせることで、より効果的な指導になると考える。

#### 5 地域と連携した教育活動充実のための研究

平成 30 年 10 月、「南魚沼グルメライド」と「つむぎ通り軽トラ市」が開催され、本校生徒もイベント補助として参加し、運営に貢献した。また、平成 31 年 2 月、南魚沼雪まつり会場で「販売実習（商品開発）」、塩沢雪譜まつりでは「塩沢紬着物ショー」に出演した。地域と連携した販売活動では、これまで学んできたマーケティングやビジネスマナーなどを活用し、自ら取り組むことで知識の定着と学ぶ意欲の向上を図ることができた。また、地域行事に参加することで、生徒は地域の魅力をさらに深めるとともに、地域の方々との交流を通して、地域と学校の信頼関係をさらに深めることができた。

##### 【生徒の主な感想】

- ・ 接客方法と商品陳列について深く考えました。お客様の年齢に合わせて会話を变えるなど、対応力が付いたと思います。
- ・ 色々な年代の方が購入してくださり、すごくうれしかったです。私はお客様の呼び込みや商品説明を頑張りました。地域の方々に塩沢商工のことを知っていただき、うれしかったです。



南魚沼雪まつり（六日町）

- 商品販売以外でも地域のみなさんと取り組めることがたくさんあるんだということを知りました。生まれてはじめて塩沢紬を着てみて、私たちの地元にはこんなにすてきな織物があることを誇りに思います。これからも地域を大切にしていきたいと思います。
- 着物ショーに出ることは少し恥ずかしかったのですが、地域の方が喜んでくださったり、塩沢商工高校のことを応援する声援が聞けたことがうれしかったです。

### 【成果と課題】

今年度は様々な団体から地域行事等への参加協力依頼があった。生徒は、ビジネスマナーなど、これまで学んできたことを実際の販売活動に活用して取り組み、地域の方々との交流を通じて地域の魅力を再認識した。今年度は参加する地域行事が集中したことがあったため、次年度は生徒への負担を考慮した参加計画を立てることとしている。



しおざわ雪譜まつり（塩沢）

## 6 地元企業と連携したインターンシップの取組について

「新しい時代に求められる学力育成推進事業」と連携し、平成 30 年 10 月 10 日（水）～12 日（金）の 3 日間、地元企業へのインターンシップを行った。インターンシップに参加した生徒は 2 年生全員の 104 名、56 社で実施した。

### 【生徒の主な感想】

- お忙しい中、仕事を教えていただき社員の皆さんが明るく、元気な方ばかりだったので、楽しく説明を聞き、作業をすることができました。今回のインターンシップで学ばせていただいたことを、社会人になった時に活かしていきたいと思います。
- インターンシップは、学校では学べないことを多く学べたので、貴重な 3 日間となりました。
- あいさつや言葉づかいもそうですが、「人のことを思いやりながら仕事をするのが大切」ということ、そして、「仕事の効率を考えること」を学びました。仕事はやることが多く、新しいお客様が次々にいらっしゃるのでもたもたできないからこそ、「どうすれば効率の良い仕事ができるかを自ら考える。」という事を学べたと思います。また、機会があればインターンシップに行きたいと思います。



### 【成果と課題】

インターンシップに行く前に不安を持っていた生徒も、インターンシップを体験した後は、充実感を味わったり、進路を考えていく上でとても参考になったという感想をもつ生徒が多かった。このことから、勤労観や職業観を育成するためにインターンシップは有意義な取り組みであることがわかる。次年度への課題として、事前指導のための時間確保と教職員の負担軽減があげられる。また、生徒の希望する実習先を、交通手段を配慮して設定する必要がある。



## 7 総合所見

今回の研究活動を通して、商業科は生徒のビジネスマナーやコミュニケーションの重要性を理解させるために、外部講師と連携して指導することで生徒の学びをより深めることができた。また、地域と連携した取組により、開かれた学校・地域から期待される学校になってきていると考える。次年度は、商品販売活動等を通してコミュニケーション能力を向上させる研究に加え、インバウンドに対応できる人材の育成を実現するため、英会話によるコミュニケーション能力の育成を目標に、地域の大学と連携しながら指導方法の研究に取り組みたい。

機械システム科は、次年度2年生での土木科目選択者が15名であった。本物の機械・機材を使用した指導をコンセプトに地域と連携して取り組み、地域が求める人材育成をさらに推進していきたい。また、新しい試みとして、地中熱を活用した克雪技術の指導方法の研究を実施した。今年度の成果として、生徒の地中熱による克雪技術の知識の基礎を築くとともに、関心・意欲を高めることができた。次年度は実際に生徒に施工させるため、安全への配慮と実習環境の整備をする必要がある。

本校には、南魚沼地域を支える人材の育成が地域から期待されていることから、今後も地域連携した教育活動を行っていく必要がある。これまでの取り組みの成果もあり、実施した全ての取り組みにおいて、地域の企業・団体と連携して実施することができた。

### 【地域の声を聞く会アンケートより】

- ・ 生徒さん達が地域の行事に参加してくれることが、とても良いことだと思います。参加することで、塩沢商工高校の評判が上がると思います。
- ・ 地域企業は、将来を担う人材不足が深刻な状況です。進学等で地域を離れ外からこの地域を見る機会を得ることは良い事と思いますが、この地域で生活をしていくことのメリットをご指導いただき、1人でも多く帰って来ていただきたい。
- ・ 少子化ということで、どんどん学級数も減っていくが、だからこそこにしかない特色やきめ細やかな活動で、生徒1人1人に目の届く学校を目指して欲しい。できない事でなく、できる事に目を向けて前向きに、丁寧に取り組むことが自然に「この高校に行きたい」という評価につながると思う。
- ・ 地域に必要とされる学校であると思っております。地域に残り、活躍される方が増えるとありがたいです。

### 【平成30年度自己評価】

#### ① 事業を通して地元企業に対する理解が深まったか。【生徒アンケート】

「思う」と答えた生徒が72.4%であり、数値目標の70%以上を達成することができた。生徒が地元について理解を深める活動として、この取組は効果があると考えられる。約1/4の生徒が「わからない」と回答しているが、指導の目的が生徒へ明確に伝わっていない可能性があるため、次年度は指導方法の改善が必要である。

#### ② 就業体験を通して勤労観が醸成されたか。【生徒アンケート】

「思う」と答えた生徒が77.3%であり、数値目標の70%以上を達成することができた。インターンシップに参加した生徒の感想も多く、多くの生徒が肯定的な感想であった。また、インターンシップ後、生徒の学習意欲も向上した。反省点として、事前指導のための時間確保と教職員の負担軽減があげられる。

## 県立十日町高等学校

### 【テーマ】 大学進学実績の向上と地域から信頼される学校づくりの推進

#### 【目標】

- 進学情報を適切に提供することで、進路実現に向けて必要な知識を身に付けさせ、意欲を高めさせる。あわせて、合宿や出前講座などを実施することで正しい学習方法等を身に付けさせ、効率的な取組の実践に結びつけさせる。これらの取組により大学進学実績を向上させる。
- 生徒の主体的な学びの成果や学校の取組などを積極的に地域に発信することで、地域から信頼され、地域の中学生から選ばれる学校にする。

#### 【取組の概要】

- 大学進学実績を向上させるための取組  
適切な進路情報の提供のため、大学進学を目指す生徒とその保護者を対象とした外部講師による講演会を実施し、また進路指導で先進的な実践をしている学校の視察を実施した。  
正しい学習方法習得のため、各学年で学習合宿を実施し、また大学出前講座を実施した。
- 生徒の主体的な学びの成果を発信するための取組  
「小学生のためのサイエンスフェスティバル」、「学習成果発表会兼高校生と中学生の情報交換会」を開催した。また十日町市主催の「まちなか×GAKUENSAI」には120人以上の生徒が参加した。
- 地域に向け、学校の取組等についての情報を発信するための取組  
近隣の中学校に向け、学校紹介ポスターを3回発行した。また、公式twitterを開設し、情報を発信した。

#### 【取組の成果】

- 国公立大学入試の結果、難関大学2人（東北大学、筑波大学／昨年度0人）を含む22人（昨年度19人）が合格した。
- 一般選抜の志願倍率が1.0倍を超えた。

# 1 今年度の取組

## (1) 大学進学実績向上に向けた取組

### ① 学習方法等に関する講演会

目的 志望校合格に向けた2学期以降の学習方法について理解を深めるとともに、受験生としての自覚を再確認し、目標達成に向けた具体的な実践を計画的に進めるきっかけとする。

日時 平成30年8月21日

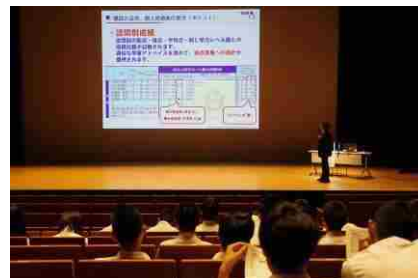
場所 越後妻有文化ホール「段十ろう」

対象 3年生大学進学希望生徒とその保護者

参加者 生徒35人 保護者25人 合計60人

講師 猪村 達也 様 (河合塾 東日本営業部)

演題 「目標達成に向けた今後の取組み  
～親子で考える『合格の秘訣』とは?～」



### ② 学習方法等に関する講演会

目的 3年生への進級を間近に控えた生徒とその保護者が、大学受験に必要な知識、準備の進め方、学習方法や心構え等についての情報を共有し、受験生としての準備をスタートさせるきっかけとする。

日時 平成31年3月2日(土)

場所 越後妻有文化ホール「段十ろう」

対象 1, 2年生大学進学希望生徒とその保護者

参加者 生徒73人 保護者64人 合計137人

講師 土橋 英夫 様 (市進予備校)

演題 「親子で考える、志望校合格のための今後の学習方法」

### ③ 1, 2年生学習合宿

目的 各教科の学習方法を学び、学習習慣を定着させるきっかけとする。

日時 平成30年8月5日(日)～7日(火) 2泊3日

場所 NASPAニューオータニ(湯沢町)

対象 1, 2年生大学進学希望生徒

参加者 1年生42人 2年生34人 合計76人



### ④ 3年生学習合宿

目的 受験に向けた長時間学習の基礎を身に付け、受験生としての取組の定着させるきっかけとする。

日時 平成30年7月25日(水)～28日(土) 3泊4日

場所 日本大学八海山セミナーハウス(南魚沼市)

対象 3年生進学希望生徒

参加者 74人



## ⑤ 大学出前講座

目的 現在の志望校よりもワンランク高い大学での学びを体験することで、「行ける大学」ではなく「行きたい大学」を目指すための意識改革のきっかけとする。

日時 平成30年10月25日

場所 本校視聴覚教室

対象 医療・看護系大学進学希望者

参加者 生徒58人

講師 三輪 佳宏 様 (筑波大学)

演題 「知って得するクスリの話」



## ⑥ 県外校視察

目的 進路指導に先進的な取組を実践している県外校を訪問し、その取組に関する情報を教示いただき、今後の本校での進路指導に役立てる。

日時 平成30年12月19日(水)～20日(木)

視察先 福島県立安積黎明高等学校、山形県立米沢興譲館高等学校

視察者 進路指導部教諭2人、キャリア教育推進委員教諭1人

## (2) 生徒の主体的な学びの成果を発信するための取組

### ① 「小学生のためのサイエンスフェスティバル&高校授業体験」の開催

概要 「サイエンス」をテーマにした体験ブースや、芸術・体育の魅力に触れる企画を行う。理学部、生物部、書道部、吹奏楽部、陸上競技部が各ブースを運営した。

日時 平成30年8月22日(水)

場所 本校

対象 地域の小学生

参加者 102人



### ② 「学習成果発表会 兼 高校生と中学生の情報交換会」の開催

概要 本校への進学を検討する、地域の中学生とその保護者を対象に、本校生徒の学習成果を発表するとともに、本校生徒が中学生に本校の情報を直接伝える機会とする。空手道部、英語部、生物部、2年生アドバンストクラス、吹奏楽部、書道部、写真部、情報科、芸術科が学習成果を発表した。

日時 平成30年11月10日(土)

場所 本校

参加者 地域の中学生とその保護者30名



### ③ 「まちなか×GAKUENSAI」への参加

概要 十日町市主催のイベント。「まちなか」から十日町を元気にしようと、市内7施設を使って市内の高校生が作り上げる「学園祭」

本校生徒会執行部、吹奏楽部、空手道部、書道部、英語部、理学部、美術部、写真部が各ブースを運営した他、有志ダンスチームが参加、さらに運営ボランティア等、合計で120人以上が参加した。

日時 平成30年11月11日(日)

場所 十日町市内7施設



## (3) 地域に向け、学校の取組等についての情報を発信するための取組

### ① 学校紹介ポスターの発行

概要 年度中に3回発行。近隣の中学校31校に配付し掲示を依頼した。

第1号(平成30年9月発行)

特集「1学期の部活動の活躍と、盛り上がりを見せた学校行事」

第2号(平成30年11月発行)

特集「3年間で育成を目指す資質・能力を明確にし、十日町高校での《ひとづくり》の姿をまとめた『グランドデザイン2018』を作成しました」

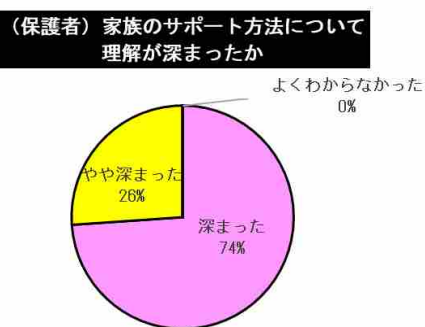
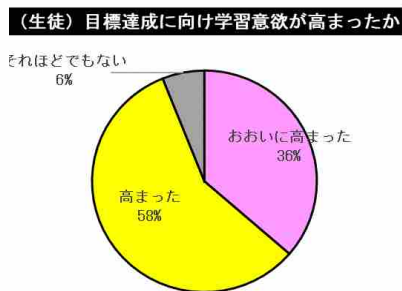
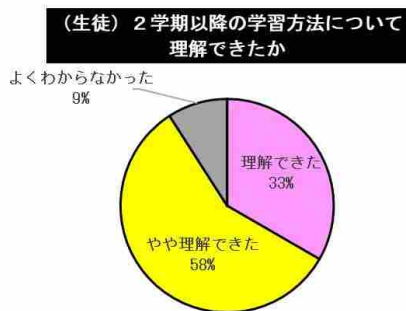
第3号(平成31年3月発行)

特集「『アドバンストクラス』スタートから3年、1期生が卒業を迎えます。成果と課題を検証し、さらなる進化を目指します！」

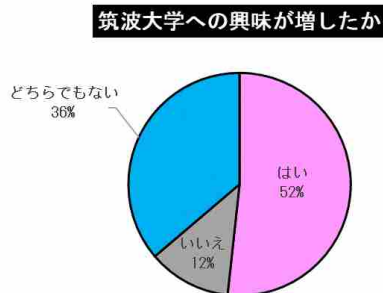


○今年度の取組についてのアンケート結果等

**学習方法等に関する講演会（3年生）**



**大学出前講座**



**学習合宿**

- ・今まで身に付いていなかった受験生としての生活リズムを身に付けることができた。（3年生）
- ・1日10時間の学習を体験できた。今後も継続し、習慣化したい。（3年生）
- ・皆で頑張ることができた。「受験は団体戦」の意味が理解できた。（3年生）
- ・長時間学習できることがわかった。来年もチャレンジしたい。（1年生）
- ・自分の学習に何が足りないかがわかった。大学受験への意欲も高まった。（2年生）

**3 総合所見**

大学進学実績向上に向けた取組では、国公立大学等への進学を希望する生徒で編成した「アドバンストクラス」の1期生が3年生となり、本事業を活用することで具体的取組方法についての理解が深まり、進路実現に向けた意欲が高まるなど、より効果的な進路指導が可能となった。特に、学習方法等に関する講演会を開催し、生徒と保護者が共通理解の下で準備を進めるきっかけを作ることができたことは効果的であったと考える。来年度は、本年度の成果と課題を踏まえ、既存事業の内容等を改善しながら継続して実施したい。

生徒の主体的な学びの成果を発信する取組では、発表を経験することで生徒の自信が深まり、更なる学びへの意欲が高まる様子が確認できた。また、急速に少子高齢化が進む十日町地域で、高校生による学びの成果の発信が地域の活性化に結びつくという視点から、市主催のイベント等での発表の場が拡充される動きが出てきている。地域貢献の側面でも寄与できたと感じる。来年度は「総合的な探究の時間」の成果発表を十日町市と連携して実施していきたい。

地域に向け学校の取組等について情報を発信するための取組では、これまでホームページ等での情報発信のみであったものを、ポスターやTwitterでの発信が可能となり、より詳細な情報を、わかりやすく適切な時期に発信できるようになった。生徒からも自身が情報発信されるような活躍をしたいとの意欲的な声が聞かれるようになった。Twitterのフォロワー数でも本校への関心が高いことがうかがわれることから、今後も継続して情報発信を継続したい。

県立久比岐高等学校

【テーマ】 生徒の協働による「主体的・対話的で深い学び」を実現する学校をめざして

【目標】

1 学校設定教科「ステップアップ」の指導の充実

「ステップアップ1」において、学習内容の確実な定着を図るための学び直しの指導の充実を図る。

2 「主体的・対話的で深い学び」のための指導方法の改善

「主体的・対話的で深い学び」指導方法の改善のため、上越教育大学の西川純教授の指導を受け、「学び合い」による「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業の改善を図る。

【取組の概要】

- ① 学校設定科目「ステップアップ1」の実践をとおして、学び直しによる基礎学力の定着を図る。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導方法の改善のため、上越教育大学と連携して、1年生の「数学I」・「数学A」で「学び合い」を取り入れた授業を実践する。
- ③ 公開授業の実施、中学校や他県の先進校の視察、研究会等への参加をとおして研究を重ね、取組に反映する。

【取組の成果】

- ① 「ステップアップ1」では、生徒の80%以上が「授業内容が理解できた」と回答した。
- ② 「学び合い」については生徒の80%近くが、「授業についていける」「授業に主体的に参加している」と回答しており、主体的・対話的で深い学びにつながっていると考えられる。

## 1 学校設定教科「ステップアップ」の指導の充実

### (1) 学校設定科目「ステップアップ1」による「学び直し」の取り組み

- 「主体的・対話的で深い学び」に取り組むための基礎となる学力を身に付けるため、「学び直し」に重点をおいた科目として学校設定科目「ステップアップ1」を設定している。
- 「ステップアップ1」は2単位の授業で、1単位分は2クラスを3つに分け、英語の内容に取り組み、残りの1単位分は1クラスを2つに分け、国語や数学の内容に取り組んだ。

## 2 「主体的・対話的な深い学び」のための指導方法の改善

### (1) 「学び合い」を取り入れた授業の改善

- 本年度、校内に「学び合い推進委員会」（校長、教頭、教諭5名）を設置した。この委員を中核として、校内で授業改善を推進した。
- 「学び合い推進委員会」で選定した「学び合い」や「アクティブ・ラーニング」に関する書籍を職員室に配置した。職員が本を手に取り、授業改善の話をするなど、校内での意欲の向上が見られた。
- 1年生の「数学I」と「数学A」においては、毎時「学び合い」による授業を実施した。その他の科目では、委員を中心に部分的な「主体的・対話的な深い学び」の試行に取り組んだ。

### (2) 上越教育大学との連携

- 上越教育大学の西川純教授から4/16(水)と6/7(木)に来校いただき、「学び合い」の授業方法に関する指導を受けた。また、西川研究室の大学院生数名が参加する形での授業実践を、11/1(木)と11/8(木)におこなった。

### (3) 先進校への訪問、授業の参観

- 9/10(月)に上越市立柿崎中学校、9/21(金)県立有恒高等学校、10/12(金)には、上越市立安塚中学校を委員が訪問し、公開授業の参観後、研究協議に参加した。中学での「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の試みや、県立有恒高等学校の数学の「学び合い」の取組について学び、職員間でも情報共有した。
- 11/12(月)～11/13(火)に、埼玉県立庄和高等学校及び埼玉県立新座高等学校を委員5名で訪問し、公開授業の参観後、研究協議に参加した。埼玉県では県教育委員会の指導のもと、ジグソー学習法による授業改善が実施されており、庄和高等学校ではジグソー学習法の授業を参観した。新座高等学校では、ジグソー学習法に加え、同校の10年にわたる「協働学習」を実践しており、それらに関する授業を参観した。両校とも授業公開後の研究協議に参加したが、授業改善の取組や、教科横断で実施している生徒観察、生徒支援の視点からの学校支援方法についての取組は大いに参考になった。

### (4) 公開授業の開催

- 12/13に実施された公開授業では、県内15名の教員が来校し、授業参観の後、研究協議を行った。研究授業の評価は概ね好評であり、上越教育大学の西川純教授からの指導を受けた。
- 西川教授からは実践の継続と活動の校内の授業への拡大について、「毎時間でなくとも単元などに1回は「学び合い」授業を取り入れるだけで学習効果が上がるので、他の教科・科目でも実践をして欲しい」との話があった。

### 3 取組の成果

#### (1) 「ステップアップ」の充実について

- 「ステップアップ1」では、生徒の80%以上が「授業内容が理解できた」と回答し、授業に参加する姿勢の向上は見られている。
- 今後は「ステップアップ1」における「学び合い」の導入について検討する。

#### (2) 「主体的・対話的で深い学び」について

- 「学び合い」を取り入れた授業を通年実施した1年生「数学I」「数学A」において、生徒に対して5月、9月、1月、2月の4回授業アンケートを実施した。その結果、7月～9月では、「数学がわかりやすく力がついている」などと回答した生徒が80%以上、1月と2月では、「理解しやすい」「学習意欲がわく」と回答した生徒が70%以上などの結果が得られた。
- 先進校の視察や県外先進校への授業参観は、参観者の刺激になるとともに、職員への報告を通じて、学校全体での授業改善の意欲の向上につながり、有益であった。
- 「学び合い」では、生徒の協働による学習を教員が支援することが原則となるため、教員にファシリテーターとしての役割が求められる。しかし、取り扱う教材によっては、ファシリテーターの役割がうまく機能しないときがあったため、来年度は、職員研修などをおしてファシリテーター役のあり方について研究する。
- 「学び合い」は生徒の日常の人間関係が左右されやすいため、学級や学年単位での良好な人間関係構築が「学び合い」成功の鍵となる。HR活動などでも良好な人間関係の形成のための活動を取り入れていきたい。
- 次年度は「互見授業」を推進し、ファシリテーターとしての役割のあり方を研究するとともに、生徒の様々な様子を職員間で情報共有していきたい。

### 4 総合所見

「学び直し」や「学び合い」による授業改善の取組は、初年度一定の成果をあげたと考えるが、実践の具体的手法や、学び合いに効果的なクラスづくりなどの課題も見えてきた。次年度は実践を他の学年、教科へと広げて学校全体の授業改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」を推進していきたい。

「学び合い授業（1年生5月）」



「学び合い公開授業（1年生12月）」



## 県立羽茂高等学校

### 【テーマ】 「社会に開かれた教育課程」 ～地域と連携した特色あるコースの設置に向けて～

#### 【目標】

平成 32 年度に予定されている「地域と連携した特色あるコース」の設置に向けて、佐渡の文化や産業などの地域資源を活用した校外活動やキャリア教育、インターンシップを推進し、地域連携による「社会に開かれた教育課程」の構築を図る。

#### 【取組の概要】

- 1 1年生に対して、佐渡の観光産業の理解、外国語（英語）習得、異文化コミュニケーション学習を目的とした、「英語観光ボランティア・ガイド講座」を実施した。
- 2 「社会に開かれた教育課程」として、平成 31 年度から先行実施される「総合的な探究の時間」を想定し、1年生に対して、佐渡学学習を実施している。佐渡の自然・文化を知るための「島内校外活動」（石名天然杉、両津郷土博物館）を実施した。
- 3 2年生に対して、キャリア教育の一環として地域の企業で「インターンシップ」を実施した。
- 4 地域と連携している先進校の視察を実施した。
- 5 全校生徒に対して、キャリア教育の一環として本校卒業生の弁護士 菊池 弘之 様による「同窓生講演会」を開催した。
- 6 本校における活動・取組を地域に発信するために、「羽茂高校だより」を作成し、地域に回覧した。また、近隣の中学校にも配布した。

#### 【取組の成果】

「地域と連携した特色あるコース」の設置のため、活動の見直しを行った。一例として、希望者のみだった英語観光ボランティア・ガイド講座は1年生全員を対象とし、英会話の授業として実施した。中学校のALT、佐渡市観光振興課の職員も参加し、地域の人たちからの支援をいただいた。また、講座だけでなく、校外活動、インターンシップなどにおいて、佐渡市や地元企業、地元出身者などの理解と支援を得て、学習活動を実施できた。来年度は、本年度の取組を検証し、これらの活動が有機的に機能するコースの設定と教育課程の作成を行う。

## 1 英語観光ボランティア・ガイド講座の取組について

### (1) 宿根木現地研修の実施 〈平成 30 年 11 月 20 日 (火)〉

1 年生の英会話の授業として、英語観光ボランティア・ガイド講座を実施した。その集大成として国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている宿根木地区において、現地研修会を実施した。当日は、本校のALT（アメリカ出身）だけでなく、佐渡市観光振興課の国際交流員（シンガポール出身）、地元中学校のALT（アメリカ出身）もゲスト・ティーチャーとして参加した。



宿根木の街並みで英語で観光案内をする生徒の様子

#### 〈生徒の感想〉

- ・私は人と話すのが苦手で、英語にもあまり自信がありませんでした。でも、実際にやってみて、1 回目のときは声が小さく、目を見て話すことも全然できなかったけど、2 回目からは最初よりは意識してできたと思いました。
- ・英語ガイドを通じて佐渡の知らなかったことをたくさん知ることができました。英語で話して緊張したけど、自信が持てるようになりました。人と話す力が少しですが身についたと思います。
- ・ALT の先生に積極的に話しかけて、授業で少しでも活かせたらいいなと思いました。聞く力をもっとつけたいです。

### (2) 観光ボランティア・ガイド講習会の開催 〈平成 30 年 11 月 6 日 (火)〉

現地研修会に先立ち、佐渡市在住の通訳案内士 塚越 タカユキ 様をお招きし、1 年生へ英語ガイドの心得に関する特別講座を英会話の授業で実施した。

生徒は、地域の歴史や文化など観光客が期待するガイドの内容、ガイドをするときの声の大きさやアイコンタクトなど姿勢、態度、英語で説明することでのポイントなど、ガイドとして様々な視点を専門家から学ぶ機会となった。



ボランティア・ガイドの講習会の様子

〈生徒の感想〉

- ・英語ガイドは難しいと思っていましたが、文法を考えて話すことよりも簡単な単語だけでも伝わるという話を聞いて、気が楽になりました。
- ・私は、佐渡に長く住んでいるのに、佐渡の歴史をまったく知らず、お話を聞いていて恥ずかしいと感じました。まず、ガイドする場所のことを知っておかなくてはいけないことも分かりました。
- ・外国人とコミュニケーションを取ることは楽しそうだと思います。
- ・日本でもまだまだ知らないこともあるけど、外国の文化や歴史も知りたいと思いました。

## 2 島内校外活動（石名天然杉、両津郷土博物館）について 〈平成 30 年 10 月 3 日（水）〉

1 年生の校外学習として、石名天然杉と両津郷土博物館を見学した。

石名は佐渡の山中で天然杉が自生し、ハイキングができるように整備もされている。生徒は、佐渡市在住の専門のガイドから自生林について説明を受けた。また、以前は木材として天然杉が伐採された歴史についても学んだ。

昼食を挟み、佐渡市立両津郷土博物館を訪問した。生徒は、学芸員から佐渡で使われていた道具や掲示物の説明を受け、佐渡の歴史について学んだ。



石名天然杉でガイドからの説明を受ける



両津郷土博物館を見学し佐渡の歴史を学ぶ

〈生徒の感想〉

- ・今日 1 日を終え、たくさんのことを学びました。杉には尖冠杉、円冠杉、半生半枯（はんしょうはんこ）、天然杉の 4 種類の杉があることを学びました。ガイドさんは杉の特徴や昔の出来事も詳しく教えてくれました。佐渡に多く自生するアテビという植物も初めて知りました。
- ・博物館では、昔、漁業で使われていた道具や、今でも祭で使われているかぶり物などが展示されていました。昔の漁業の様子や、他の地区の行事を知ることができました。今度は、今日私が習ったことを誰かに教えてあげたいと思いました。

## 3 インターンシップについて 〈平成 30 年 7 月 27 日（金）から 8 月 24 日（金）〉

進路に関する意識を高めることと職業の理解を目的に 2 年生の就職希望者に対して、夏休みの期間を利用してインターンシップを実施した。

生徒の希望職種に合わせ、菓子製造販売、建築業、運輸業、小売業（スーパー、ホームセンター）、ホテル、特別養護老人ホーム、保育所で 2 日間または 3 日間の職場体験を行った。

本校は就職希望者が例年 2 割程度いる。就職希望先は、島内の生徒も多い。就職でミスマッチが起きないように、生徒はインターンシップを通じて島内の就職の現状を理解し、今後の進路

の選択を考える上での貴重な体験になった。



建設業でのインターンシップ



保育所でのインターンシップ

#### 4 地域と連携している「先進校視察」について 〈平成 31 年 1 月 24 日（木）～25 日（金）〉

【目的】平成 32 年度に予定されている地域と連携した特色あるコース開設へ向けて準備のため、本校と同様に地域の子どもが年々減少している地域で、魅力ある取組を実践している学校を視察する。

【訪問先】新潟県立阿賀黎明高等学校・中学校、阿賀町教育委員会（公営塾：黎明学舎）及び福島県立只見高等学校、只見町教育委員会

【概況】・新潟県阿賀町は、平成 28 年度の夏から地域おこし隊の制度を活用してスタッフを雇用し、公営塾（黎明学舎）を開設した。今後、阿賀黎明高校との相乗効果が期待されている。

・福島県只見町は平成 14 年度より「山村留学」を実施しており、県内外から只見町が用意する寮で山村生活を過ごす高校生生の募集、受け入れを行っている。福島県立只見高校の生徒数増加に繋げている。また、そのために町の予算を計上している。一部は高校の施設拡充に対しても予算を計上している。

【参加者】本校職員 4 名（教頭、教諭 3 名）

【成果】・少子高齢化で、高校へ入学する適齢期の人口減少が著しい地域で、地域の唯一の高校へ町が財政面や人的資源などの支援に乗り出している。その規模や内訳の細部、今までの取組や今後の計画を聞くことができた。

・県と町の教育委員会、高校、寮、公営塾、地域住民のボランティアなど、様々な組織の関わり方について、両地域の取り組みの努力や結果、問題点を学んだ。

・視察をした本校教員を中心にコース設置への関心、意欲が高まった。

【活用】視察先の只見町と阿賀町は町が中心となって高校の支援を行っていた。その他の先進地域を研究すると、地域との連携組織、連携の形態はさまざまである。連携する活動場面も、授業・特別活動・課外活動など学校によって異なっている。

現在、本校では組織、連携のあり方について佐渡市、地域代表、地元中学校長などと協議会を持ち、話し合いを重ねている。また、具体的な学校活動を計画、実行するため主体となる組織として校内でワーキンググループを組織した。今後、南佐渡地域の現状を分析し、佐渡市や地域の人材・資源を活用したコースの設定、総合的な探究の時間や学校設定科目で「地域と連携した特色あるコース」の授業を計画し、従来の活動の再編を行っていく。



阿賀黎明中学校の授業の様子

只見高校の授業の様子

## 5 同窓生講演会について 〈平成 30 年 10 月 19 日（金）〉

弁護士 菊池 博之 様（昭和 58 年 3 月卒）を講師として迎え、本校の第 1 体育館で開催した。内容は、現代の高校生に向けて先生が高校時代に感じていたことなどを中心に生徒へ向けたメッセージをお話しいただいた。主な内容は以下のとおり。

「佐渡での高校時代」、「何のために勉強するのか」、「大学生時代」、「（司法試験の）浪人時代」、「経済力（お金）について」、「いかにチャンスをつかむか」、「日本という社会」  
生徒たちは、熱心に話を聞き、メモを取っていた。

### 〈生徒の感想〉

・今回の講演を聞いて、私はまだ将来のことが決まっていないので、このままだと「自分さがし」で終わりそうで、少し焦りました。私は、「このまま佐渡にいたいな。」と欲っていたので、菊池先生が高校時代に「どうやって田舎から抜け出すかが一つのテーマだった。」と聞いて、この時代の人はやる気が違うなと思いました。

また、先生の「自分の中に入れたもの以外は出てこない」という言葉もなるほどと思いました。私も、高校生活でいろいろなことを「自分の中に入れ」、将来のことを早く決め、「中に入れたことを出せるように」がんばっていきたいです。

## 6 「羽茂高校だより」について

昨年度の地域の声を聞く会で「小・中学校のように、高校も地域へ向けて発信してはどうか」との意見をいただいた。そこで、本年度から地域の回覧板網を利用して、「羽茂高校だより」を 2 回発行した。同時に、近隣の中学校にも配布した。



羽茂高校だより 第1号

7 取組の成果

学校評価アンケートで、「学校が楽しい」と答えた生徒は、1年生が85.7%、2年生が80.0%となった。「本校に入学してよかった」と答えた生徒は、1年生が85.7%、2年生が82.0%であった。また、「生徒の様子や話から羽茂高校は楽しいという印象が伝わってくる」と答えた保護者は全校で78.0%であった。

「学校行事は、みんなが楽しく行えるように工夫されている」と答えた生徒は1年生で82.0%、2年生で74.0%であった。特に1年生は、その内訳が「よくあてはまる」と答えた生徒が60.7%で、2年生が1年生だった昨年の31.4%と比べて大きく改善した。

昨年度から追加された1年生の校外行事は、全校対象となった英語ボランティア・ガイド養成講座のみであったことを考えると、この数値の改善は生徒がガイド養成講座を通じ、学校の取組を肯定的に捉えたことが示唆される。

英語ボランティア・ガイド養成講座は、校外行事と授業が連動しており、「生徒自らが観光案内を英語で企画」、「生徒に実行可能だと見通しを持たせる、段階的な課題の設定」、「生徒がチャレンジを感じる場面の設定」、「難関を乗り越えるための反復練習行動が自然に発生する場面の設定」、「行動の般化によるスキル獲得」、「ポジティブなフィードバック」を有機的に結びつけることを意図してデザインした。

これらにより、「学校行事は、みんなが『楽しく』行えるように『工夫』されている」という質問に対して、多くの生徒が自己肯定感の高まりを感じ、「よくあてはまる」と答えたと推測される。

また、今回の一連の取組において、佐渡市在住の通訳案内士、佐渡市観光振興課、本校卒業生などと連携したことは、本校で予定されている地域と連携した特色あるコース設立に向けて、

地域が高校と連携する上で重要な礎となった。

## 8 総合所見

平成 32 年度に予定されている地域と連携した特色あるコースの設置に向けて、従来からある授業、特別活動の見直しを行った。また、地域への連携を高めるため、地域と連携している先進校の視察や、地域に高校の姿を伝える羽茂高校だよりを発行するなどの取組を行った。

これらの取組は、本校の特色を打ち出し、魅力ある学校となるように、新コース設置の布石となるものとして実行した。

また、地域との連携に加え、学力や生活の面で多様な生徒が入学している状況の変化や、国公立大学進学から就職まで様々な進路を希望する生徒が所属している現状を考慮し、「キャリア教育」や「高大連携」を見据え、「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体的・多様性・協同性を備えた能力」を育み、「主体的・対話的で深い学び」となるコースをデザインしたい。

今後も、地域の核として、また地域からの期待に応える高等学校として、PDCAサイクルで学校行事や授業を検討、改善し、地域と連携した特色あるコース設置のための準備を進め、佐渡から「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり」を推進、発信していく。